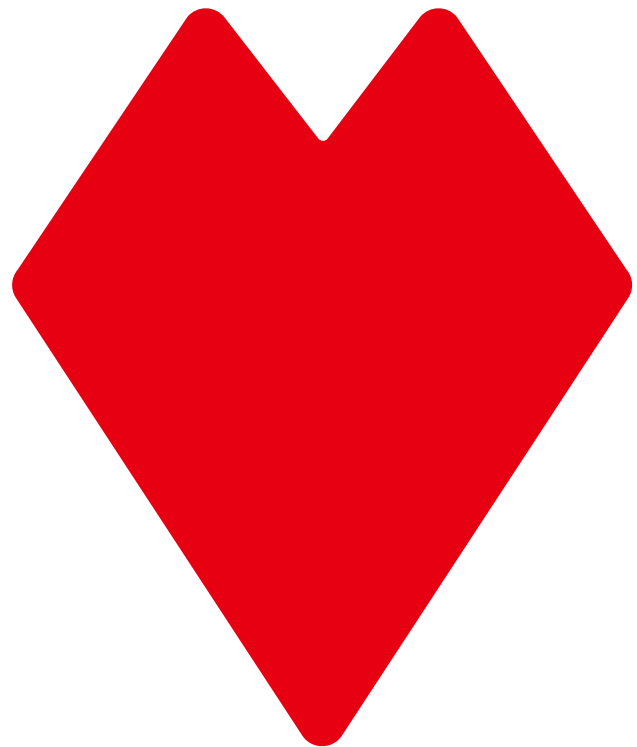


LOTTE

SUSTAINABILITY

REPORT 2020



変化する社会課題に対応し、 「愛される会社」であり続けるために。

ロッテの社名には、「愛される会社にしたい。愛される製品をつくっていきたい。」

という創業者の想いが込められています。

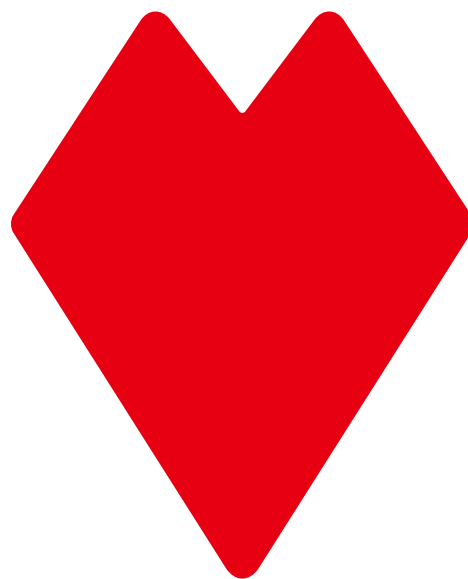
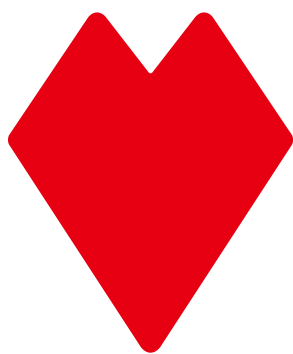
持続可能な社会の実現に向け、私たちは2018年にESG中期目標を掲げました。

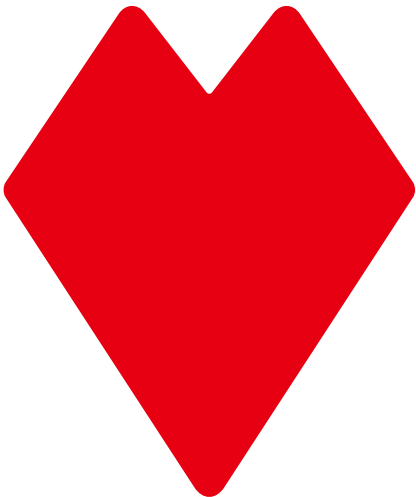
これは、2028年に向けて私たちがありたい姿であり、

変化する社会課題に対応し、「愛される会社」であり続けるための指針です。

このサステナビリティレポートでは、

達成に向けた私たちの取り組みをご紹介します。





Our Philosophy

コーポレートメッセージ

お口の恋人

LOTTE

ロッテグループ理念体系

LOTTE Group Mission

私たちはみなさまから愛され、
信頼される、よりよい製品や
サービスを提供し、
世界中の人々の豊かな
暮らしに貢献します。

LOTTE Values

- ユーザー オリエンテッド
- オリジナリティ
- クオリティ

LOTTE Group Way

- ① 安全・安心 ② 公明正大
- ③ コミュニケーション
- ④ 従業員 ⑤ 環境
- ⑥ 社会貢献
- ⑦ コミュニティ

♥ ハートマークと企業理念について

創業70周年を機に、コーポレートメッセージ「お口の恋人」を図式化したのがこのハートマークです。愛情や幸福の象徴であるハートに、口の形を投影したもので、「愛される会社になりたい、愛される製品をつくっていききたい。」という私たちが受け継ぐ創業の想いを示しています。この想いを言葉にしたものがロッテグループミッションであり、これを実現するためにロッテが大切にしてきた3つの価値がロッテバリューです。これらを企業理念とし、私たちの行動規範であるロッテグループウェイと合わせて理念体系としています。

CONTENTS

SUSTAINABILITY REPORT 2020

2 社長メッセージ

4 ロッテノーションの歩み

6 ロッテを知る

POINT

グループの全体像

私たちが大切にしている考え方や創業からの歩みと、現在の姿についてご紹介します。

8 マテリアリティへのアプローチ

10 2028ESG中期目標

12 1: 食の安全・安心

14 2: 食と健康

16 3: 環境

18 4: 持続可能な調達

20 5: 従業員の能力発揮

22 有識者ダイアログ

POINT

サステナビリティに対する考え方

マテリアリティやESG中期目標について、関連するSDGsを交えてご説明します。

25 2019年度 活動報告

26 組織統治

27 人権

28 労働慣行

36 環境

42 公正な事業慣行

46 消費者課題

53 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

56 サステナビリティ活動の推進

POINT

2019年度 活動報告

ISO26000の7つの中核主題に基づいて、2019年度の取り組みをご紹介します。

58 ロッテのサステナビリティ取り組み体系

60 CO₂排出量の第三者保証

61 会社情報

報告内容について

編集方針 株式会社ロッテ サステナビリティレポート2020は、すべてのステークホルダーの皆様がサステナビリティへの考え方や取り組みをご理解いただくことを目的に、2019年度の活動を中心に掲載しています。また、社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000を参考に編集しています。一部の過去情報は、より妥当な集計方法を採用し見直しを行っています。

対象期間 2019年度(2019年4月～2020年3月)

海外の子会社については、決算期に合わせて2019年1月～12月を対象としています。また、一部の報告内容には過去や直近の情報を含んでいます。

対象範囲 原則として、(株)ロッテおよび連結子会社(2020年3月31日時点)を対象にしており、それに合わせて過去情報の対象会社を遡って修正しています。ただし、情報を十分に把握できていない場合は、報告の都度、対象範囲を明示しています。(株)ロッテの2019年度情報には、2020年2月に(株)ロッテより分社化した(株)ロッテシティホテル(旧ホテル事業部およびゴルフ事業部)の情報は含んでいません。

報告年月 2020年10月



社長メッセージ

私たちの存在意義(パーパス)を見つめ直し、
自分たちがなすべきことは何か、
お客様から期待されていることは何か、を考えました。

代表取締役社長執行役員

牛腸 栄一

はじめに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々のご家族の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈り申し上げます。また、感染拡大防止や治療などに日々ご尽力されている保健機関、医療従事者の皆様に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

2020年、世界は新型コロナウイルス感染拡大の渦中に呑み込まれ、社会に未曾有の混乱を引き起こし、経済に大きな影響を与えました。わが国においても学校の休校要請、東京オリンピック・パラリンピックの延期、緊急事態宣言の発出などにより、人々の暮らし方や交わり方、価値観、企業での対応などに大きな変化をもたらしました。

私たちは菓子・アイスクリームの製造、販売に携わる企業として、徹底した衛生管理と、従業員やお取引先様、関係者の皆様の感染防止に最大限の対策を講じた上で、製品の安定供給に努めてまいりました。原材料の供給や、物流、販売など多くのお取引先様、関係者の皆様のご尽力によるものであり、心より感謝申し上げます。

これから社会が新型コロナウイルスとの共存・共生を図る上で、私たちもこの大きな変化に適応していかなければなりません。それは主にお客様の価値観の変化への対応と、従業員の働き方の変化への対応です。

外出自粛の期間中に、お客様から多くの励ましのお便りを頂戴しました。家で子どもからお年寄りまで一緒にお菓子やアイスを食べると楽しく癒される。つらい仕事もリフレッシュできた。子どももストレスがたまる中で、おいしそうに食べる姿に微笑ましくなった、などの内容でした。これは当社のミッションであります「私たちはみなさまから愛され、信頼される、よりよい製品やサービスを提供し、世界中の人々の豊かな暮らしに貢献します。」の実践そのものです。そのため、いま一度私たちの存在意義(パーパス)を見つめ直し、自分たちがなすべきことは何か、お客様から期待されていることは何か、を考えました。そしてお菓子やアイスにできること、すなわちそれらを持つ根源的な価値であり、かつこれからの新しい生活様式

にも貢献できる価値を最大限伸ばそうと、取り組みを開始しています。これは当社のESG中期目標にもあるように、更なる品質の向上であり、健康な生活への貢献であり、環境への配慮と社会との共存に密接に関わるものです。

また新型コロナウイルス感染拡大の影響は、私たちの働き方を強制的に変えさせました。当社では感染拡大防止と従業員とその家族の安全と健康のため、在宅勤務や時差通勤、またWEB会議の活用を行ってまいりました。緊急事態宣言の解除後もそれらを継続して推進し、加えて新たな勤務体系の仕組みを取り入れ、より働きやすい職場環境の風土改革を行うなど、生産性の高い働き方と、ESG中期目標にある従業員の働きがいの向上の両面に取り組んでいきます。

ESG中期目標については、新たに「歯と口の健康への貢献」を加えました。「キシリトールガム」の普及による「むし歯のない社会へ」という世の中の課題解決への貢献を今後も推進してまいります。「キシリトールガム」は、甘いものはむし歯の原因になるというこれまでの常識を覆したイノベーションによるCSV(共通価値の創造)の代表的な商品です。目標を新たにすることにより、イノベーションにチャレンジし続けて、新たな価値を提供するという当社の姿勢(ロツテノベーション)を明確に示します。

不透明感を増す世の中において、お菓子・アイスにできることを「ロツテノベーション」によって具現化し、人々に笑顔と豊かな生活をお届けするとともに、すべてのステークホルダーの皆様とともに、サステナブルな社会と環境の実現に取り組んでいきます。

2020年10月

代表取締役社長執行役員

牛腸栄一

ロッテノベーシヨンの歩み

私たち(株)ロッテは、1948年、東京でチューインガムの製造販売から始まり、2018年に創業70周年を迎えました。創業以来大切にしてきた3つの価値(ロッテバリュー)である「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」のもと、常に新たな価値の創造「ロッテノベーション」にチャレンジしてきました。

1948

創業

創業者 重光武雄は、戦後の品不足で粗悪品が出回っていた当時、より良い製品を作り届けたいという想いで創業しました。この想いが、企業理念として受け継がれています。また、社名の「ロッテ」には、ゲーテが著した「若きウェルテルの悩み」に登場するヒロイン「シャルロッテ」のように、「一人でも多くの人々に愛される会社になりたい。愛される製品を作っていきたい。」という想いが込められています。

お口の恋人
LOTTE



1957

「グリーンガム」発売



1964

チョコレートの製造販売開始

当時のチョコレートは、アメリカ流の軽い味わいが主流でした。そこで、スイスから技術者を招聘して誕生したのが、コクがありなめらかな「ガーナミルクチョコレート」です。口どけを追求したマイクログラインド製法など、独自技術で進化を続けながら、「母の日ガーナ」などの独自プロモーションにより売上を伸ばし、国内で販売個数No.1*のチョコレートブランドに成長しました。

* 出典：インターン社2019年度SRIデータ



1958

「ロッテ歌のアルバム」放送開始

1950年代後半から民放テレビの放送が本格化しました。当時、新しいメディアであったテレビに、いち早く着目し、歌謡番組「ロッテ歌のアルバム」の一社提供スポンサーになりました。この番組で「お口の恋人」というコーポレートメッセージが広く普及しました。



事業の歩み

1948 杉並区狹窪で(株)ロッテ創業
1950 社屋と工場を新宿区百人町に移転

1958 ロッテ歌のアルバム放送開始
1964 チョコレートの製造販売開始

製品の歩み

1957 グリーンガム発売

1964 ガーナミルクチョコレート発売

1984
「コアラのマーチ」発売



1981
「雪見だいふく」発売



1972

アイスクリームの製造販売開始

当時のアイスクリームには乳脂肪が多く使われていました。そこで、植物性脂肪を使い、日本人の味覚に合ったさっぱりとして爽やかな「イタリアーノ」を発売しました。その後も、ロッテならではの発想と技術で、「雪見だいふく」「爽」「クーリッシュ」などを開発してきました。2002年のロッテスノー(株)のグループ入りを経て、国内でアイス販売金額 No.1*の企業に成長しました。

* 出典：インテージ社2019年度 SRIデータ

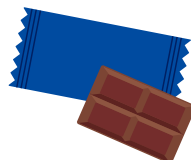


1983
「チョコパイ」発売



現在

ロッテノベーション



これまで培ってきた技術や知見、そして、創業の精神である3つの価値(ロッテバリュー)をもとに、人々の生活を豊かにする新たな価値の創造「ロッテノベーション」にチャレンジし続けています。

例えば、2015年に発売した「乳酸菌ショコラ」は、乳酸菌をチョコレートで包み、生きたまま安定的に保つロッテ独自の製法により、乳酸菌を「生きたままいつでもどこでも摂れる」という新しい価値を社会に提供することができました。さらに、2017年に発売した「歯につきにくいガム粒<記憶力を維持するタイプ>」「歯につきにくいガム板<記憶力を維持するタイプ>」は中高年の方の記憶力を維持すると報告されている「イチョウ葉抽出物」を配合した機能性表示食品で、高齢化社会の悩みに応える製品です。

1997

「キシリトールガム」発売

1970年代、フィンランドで歯の健康に役立てられていたキシリトールに着目し、研究を開始しました。1997年にキシリトールが食品添加物として認可されると、いち早く「キシリトールガム」を発売しました。チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新たな価値を提供し、「むし歯のない社会へ」という社会課題の解決に貢献してきました。さらに、2015年には歯ぐきを健康に保つ「キシリトール オーラテクトガム」を発売しました。現在も国内で販売金額 No.1*のチューインガムブランドです。

* 出典：インテージ社2019年度 SRIデータ



2003
「クーリッシュ」発売



1970 キャンディの製造販売開始
1972 アイスクリームの製造販売開始
1976 ビスケットの製造販売開始
1978 現在の本社ビル(新宿区西新宿)に移転
1988 タイロッテ設立

1993 ロッテインドネシア設立
1996 ロッテベトナム設立
2002 ロッテスノー(株)設立
2008 (株)メリーチョコレートカムパニーがグループ入り

2010 ロッテウェデルがグループ入り
2018 創業70周年

1974 クランキーチョコレート発売
1979 パイの実発売
1981 雪見だいふく発売
1983 チョコパイ発売
1984 コアラのマーチ発売

1994 トッポ発売
1997 キシリトールガム発売
1999 爽発売
2003 クーリッシュ発売

2015 乳酸菌ショコラ発売
2017 歯につきにくいガム粒<記憶力を維持するタイプ>、歯につきにくいガム板<記憶力を維持するタイプ>発売

ロッテを知る

01

グループ

(株)ロッテ

LOTTE

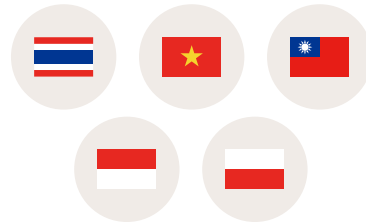
国内子会社

(株)メリーチョコレートカンパニー



海外進出国および地域

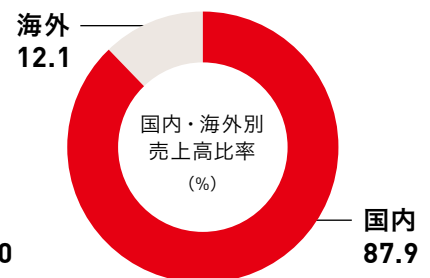
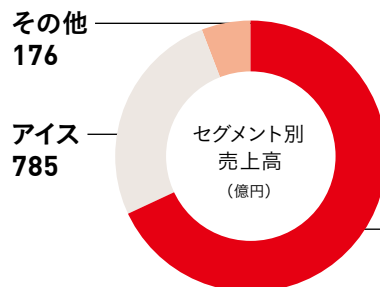
タイ ・ ベトナム ・ 台湾 ・ インドネシア ・ ポーランド



02

2019年度 業績

売上高
3,021 億円



03

▶ 創業

1948年
70th
ANNIVERSARY

株式会社ロッテは2018年に創業70周年を迎えました。

▶ 工場

11か所

(中間製品の工場を除く)

国内7か所

- (株)ロッテ：4か所
- (株)メリーチョコレート
カムパニー：3か所

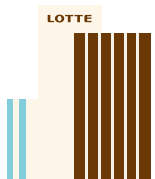
海外4か所

- タイ
- ベトナム
- インドネシア
- ポーランド

▶ 従業員数

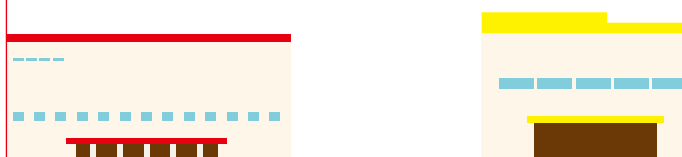
単体 **2,405名**
連結 **6,485名**

(2020年3月31日現在)



▶ 上記の工場すべてで、
世界標準の食品安全認証取得済

GFSI 承認スキーム
(FSSC22000 / BRC)



▶ 国内チューインガムシェア

No.1* メーカー



販売金額

▶ 国内チューインガム

キシリトール

No.1* ブランド



販売金額

▶ 国内チョコレート

ガーナ

No.1* ブランド



販売個数

▶ 国内アイスシェア

No.1* メーカー



販売金額

* 出典：インテージ社2019年度SRIデータ

マテリアリティへの アプローチ

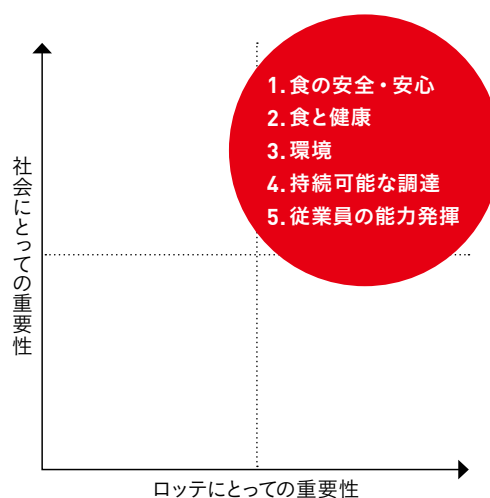
(株)ロッテは、創業以来一貫して、「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」という3つのロッテバリューをすべての企業活動の基本とし、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。近年では、持続可能な社会・環境の実現に貢献するために、社会に及ぼす影響や事業活動における重要性をもとに、マテリアリティ(重要課題)を設定して事業活動を行っています。

STEP 1

マテリアリティの整理

持続可能な社会・環境の実現に貢献するために、マテリアリティの整理を行い、事業活動を通じて取り組むべき課題を明確化しました。はじめに、ISO26000*の7つの中核主題をもとに課題の把握を行い、部門横断のグループワークを複数回実施することで事業活動における重要性を討議し、課題を抽出しました。その後、抽出された課題をもとに、外部の有識者と幅広い視点で(株)ロッテに期待される取り組みについて意見交換を行いました。さらに持続可能な開発目標(SDGs)をはじめとする国際的なイニシアチブを踏まえ、事業活動を通じて取り組むべきテーマを、「食の安全・安心」「食と健康」「環境」「持続可能な調達」「従業員の能力発揮」の5つに整理しました。

* ISO26000: ISO(国際標準化機構)が2010年11月に発行した、社会的責任に関する国際ガイダンス規格



安

食の安全・安心

建

食と健康

環

環境

結

持続可能な調達

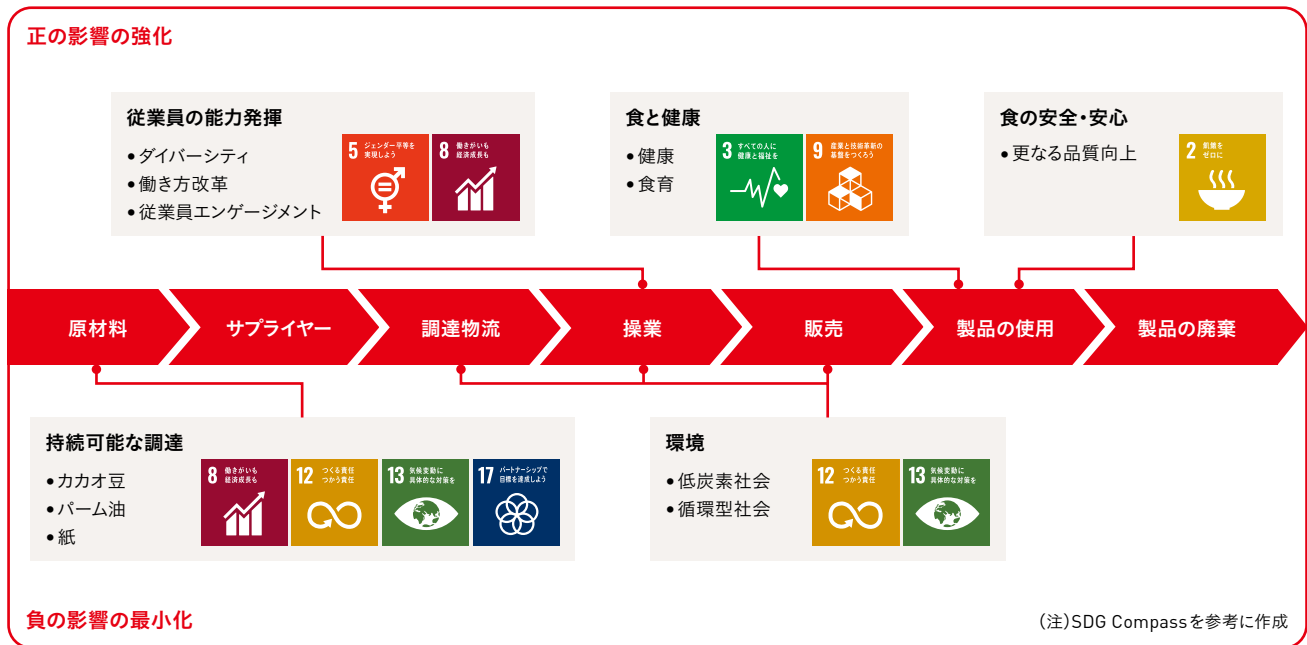
員

従業員の能力発揮



STEP 2

バリューチェーンにおけるマテリアリティマッピング



国連は2015年、貧困や不平等、不公正の撲滅、気候変動への対応など2030年までに達成すべき17のゴールとして「持続可能な開発目標 (SDGs)」を採択しました。SDGsは単なる期待目標ではなく、世界中の政府、地域社会、企業に対し広く協力を求め、人類と地球の繁栄の実現を目指す具体的な行動計画です。世界では今、SDGs達成とより良い世界の構築に向けて、企業が長期的視点に立った枠組みを策定し、積極的にサステナビリティに貢献することが期待されています。

(株)ロッテでは、各マテリアリティのバリューチェーン上での影響を分析し、それぞれのマテリアリティが「正の影響の強化」もしくは「負の影響の最小化」に貢献するかを特定しました。



STEP 3

ESG 中期目標の策定

マテリアリティに具体的に取り組むために、ESG 中期目標を策定しました。これらの目標はSDGsへの貢献を考慮して策定しており、SDGsを構成する17のゴールのうち、マテリアリティごとに(株)ロッテとして貢献できるゴールを定め、重点的に取り組んでいきます。また、目標の達成に向けて、毎年進捗を確認し、情報公開に努めていきます。





2028 ESG 中期目標

マテリアリティ	取り組み項目	指標	2019年度実績
1 食の安全・安心 	GFSI承認スキーム(FSSC22000/BRC)	認証維持	 P46
	更なる品質向上 ロッテ新品質保証システム LOTTE ADVANCEの導入	各工場の実態把握完了	 P46
2 食と健康 	健康	「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)	21%  P49
		歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)	32%  P51
		製品を通じた健康な生活への貢献人数(国内)	2,436万人  P52
	食育	食育体験者数	6.3万人  P53
3 環境 	低炭素社会	エネルギー起源CO ₂ 排出量(Scope1、2)削減率(2013年度比 原単位)	7.1%削減  P36
	循環型社会	FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)発生量削減率(2019年度比 原単位)	FLW発生量 2.9千t (原単位 0.011)  P38
		生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率	99.2%(国内)  P38
4 持続可能な調達 	カカオ豆	フェアカカオ使用率	4.0%  P42
	パーム油	第三者認証油使用率	0.0%(国内)  P43
	紙	環境に配慮した紙使用率(容器包装)	93.1%(国内)  P44
5 従業員の能力発揮 	ダイバーシティ	女性管理職比率(国内)	5.1%  P28
	働き方改革	一人当たり年間総労働時間(国内)	1,977時間  P29
	従業員エンゲージメント	働きがいを感じている社員割合(国内)	60.1%  P31

この度、ESG中期目標について2点の見直しを行いました。1点目が目標の追加で、マテリアリティ「食と健康」に「歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)」という目標を新設しました。これにより、「むし歯のない社会へ」という社会課題への貢献を今後も推進していきます。また、キシリトールは、甘いものはむし歯の原因になるというこれまでの常識を覆したイノベーションによるCSV(共通価値の創造)の代表例であり、イノベーションによる新たな価値提案へチャレンジし続ける私たちの姿勢(ロツテナベーション)をこの目標によって明確にしました。2点目はFLW(食品ロスおよび食品廃棄物)に関する目標の見直しです。2019年にスタートした10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ*日本プロジェクトに参加しており、当該プロジェクトとFLWの報告基準を統一するために、計測方法および目標の見直しを行いました。目標達成に向けた推進担当者のコメントをP12以降で紹介しています。

* 10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ
地球環境と開発に関する政策研究・技術開発を行うアメリカのシンクタンク World Resources Institute(WRI)の呼びかけのもと、サプライチェーン全体で食品廃棄物の半減を目指すイニシアティブです(P39参照)。

2020年の主な取り組み	2023年目標	2028年目標	SDGsへの貢献
<ul style="list-style-type: none"> 認証維持および運用 	国内外全工場 認証維持	国内外全工場 認証維持	
<ul style="list-style-type: none"> 新品質基準の文書化推進 	国内外全工場へ 導入完了	国内外全工場 継続運用	
<ul style="list-style-type: none"> エビデンスの取得と発信 自治体との連携 	35%以上	50%以上	 
<ul style="list-style-type: none"> キシリトールの機能理解促進 	—	50%以上	
<ul style="list-style-type: none"> 新たな健康価値を持つ製品の開発 	3,456万人以上	さらに拡大を 目指す	 
<ul style="list-style-type: none"> 工場見学のリノベーション着手 出張授業の検討 	年間 10万人以上	年間 15万人以上	
<ul style="list-style-type: none"> 省エネ機器の導入 工場への再生エネルギー導入 	13%以上削減	26%以上削減	 
<ul style="list-style-type: none"> 賞味期限の年月表示化 リユース拡大(フードバンクへの寄付) 	—	50%以上削減	
<ul style="list-style-type: none"> 国内工場廃棄物のリサイクル徹底 	99%以上 (国内)	99%以上 (国内+海外)	 
<ul style="list-style-type: none"> フェアカカオの調達拡大 新たな生産地支援活動の検討 	20%以上	50%以上	
<ul style="list-style-type: none"> 第三者認証油調達開始 	100% (国内)	100% (国内+海外)	 
<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した紙の調達拡大 	100% (国内)	100% (国内+海外)	
<ul style="list-style-type: none"> 管理職へのダイバーシティマネジメント研修 男性の育児休暇取得推進 	10%以上	20%以上	 
<ul style="list-style-type: none"> 柔軟な働き方ができる制度の検討と導入 ICTインフラの整備 	1,850時間以下	1,800時間以下	
<ul style="list-style-type: none"> 職場別の課題把握と改善アクション 	80%以上	80%以上維持	

1

食の安全・ 安心



基本的な考え方

製品づくりにあたっては、安全・安心で高品質であることはもちろん、「楽しさ」「おいしさ」「やすらぎ」の付加価値が感じられることも不可欠であると考えています。それらすべてを私たちの実現すべき「品質」と見なし、全従業員で取り組んでいます。今回は、更なる品質向上を目指した新品質保証システムLOTTE ADVANCEについてご紹介します。

更なる品質向上

GFSI 承認スキーム (FSSC22000 / BRC)

P46

2023年目標

2028年目標



国内外全工場で認証維持

ロッテ新品質保証システムLOTTE ADVANCEの導入

P46

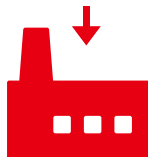
2023年目標

2028年目標

国内外全工場へ
導入完了

国内外全工場で
継続運用

LOTTE ADVANCE



更なる品質の向上と高い安全性の確保を目指して

安全な食品をお届けし、安心して召し上がっていただくことは、食品メーカーとしての基本

(株)ロッテでは、品質方針および食品安全方針に基づき、日々の品質への取り組みを行っています。お客様に安全な食品をお届けし、安心して召し上がっていただくことは、食品メーカーとしての基本だと考え、国際的な食品安全認証であるGFSI*1承認スキーム(FSSC22000*2 / BRC*3) 認証を取得し、運用しています。今後、更なる品質の向上と高い安全性の確保を目指して新品質保証システムLOTTE ADVANCEを構築中で、GFSI 承認スキーム認証をベースに、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001*4の設計開発システムの考え方と、独自の高い品質や安全のルールを取り入れる予定にしています。

これまで私たちは、主に製品の製造工程に注力して安全・安心の取り組みを徹底して行ってきました。例えば、

異物の混入を防ぐことや、出来上がった製品が基準を満たしているか出荷前に確認することなどです。新たに構築するLOTTE ADVANCEでは、製品の設計開発の段階から食品安全に関するリスクを評価するシステムを導入し、バリューチェーン全体でこれまで以上に幅広い視点でリスク低減に取り組みます。さらに、地域や製造している品目によって異なっていた品質や安全のルールも高いレベルでの統一を行います。

LOTTE ADVANCE



大切にしていることは、きちんと運用と確認ができる仕組みであること

LOTTE ADVANCEを構築する上で大切にしていることは、きちんと運用と確認ができる仕組みであることです。いくら厳格なルールを作っても、それが現場で適切に実行され、また、客観的に確認できるものでないと、お客様に安全・安心をお約束することはできません。もちろんLOTTE ADVANCEの構築後には、どのような仕組みで、どのように運用され、そして確認が行われているのかを、ホームページなどを使ってお客様にも分かりやすくお伝えしていきたいと考えていますので、どうぞご期待ください。引き続き、お客様に更なる安心をご提供することが私の使命と考えて、日々取り組んでいきます。

- *1 GFSI: 世界食品安全イニシアチブ(Global Food Safety Initiative)の略。食品安全システムの継続的改善を目的に2000年5月に設立された国際的な非営利団体。
- *2 FSSC22000: 食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるISO22000を追加要求事項で補強した世界標準の食品安全規格。
- *3 BRC: 英国小売業協会(British Retail Consortium)の略。同協会が食品安全のための第三者認証のスキームを運用している。
- *4 ISO9001: 一貫した製品・サービスを提供し、顧客満足度を向上させるための品質マネジメントシステムに関する国際規格。

株式会社ロッテ

品質保証本部 品質保証部 食品安全管理担当部長

澤田 亮尚

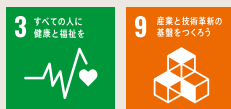
Profile

1991年、(株)ロッテ入社。チョコレートの開発研究や新製品のマーケティングに携わった後、2010年より滋賀工場での品質管理の責任者を務める。2015年から本社で品質保証の業務に従事。2017年より現職で、食品安全に関わる責任者として、LOTTE ADVANCEの構築を指揮



2

食と健康



基本的な考え方

私たちは、創業以来培ってきた知見や技術を活かし、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈夫で健康に保つという新しい健康価値を生み出し、社会に貢献してきました。引き続き、身体はもちろん、心の健康にも役立つ製品の研究・開発や情報発信・啓発活動に注力し、私たちが大切にしてきた「おいしさ」を軸に、食で健康価値を提供し、社会課題の解決に貢献していきます。今回は、そうした活動の一例として(株)ロッテの食育活動についてご紹介します。

健康

「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)

P49

2023年目標

35%以上



2028年目標

50%以上



歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)

P51

2028年目標

50%以上



製品を通じた健康な生活への貢献人数(国内)

P52

2023年目標

3,456万人以上



食育

食育体験者数

P53

2023年目標

年間10万人以上



2028年目標

年間15万人以上



ESG 中期目標の達成に向けて工場見学のリニューアルと出張授業へ取り組む

地域の皆様に愛され、地域の発展にもお役に立てるような工場見学を目指す

(株)ロッテでは、食は健康の源と考え、正しい食に関する知識や理解を深める食育活動に取り組んできました。工場見学や食育セミナー、小学校への教材提供などの食育の機会を通して、2019年度はおよそ6万人ものの方々にご参加いただきました。さらに、現在、食育推進部ではESG中期目標で掲げた食育体験者数の達成に向けて、さらに食育活動を充実すべく2つの準備を行っています。

1つ目が工場見学のリニューアルです。(株)ロッテの主力工場である浦和工場と狭山工場で見学を受け入れており*、食の安全・安心についての現場を実際に見学していただくとともに、環境への取り組みなどをご説明しています。この2工場は、立地に恵まれており、首都圏からのアクセスが良く、多くの見学者様にご来場いただいています。一方で、施設の老朽化などの課題を抱えており、ESG中期目標の達成に向けて刷新を行っています。

出張授業を通じて私たちの存在意義を見つめ直す良い機会となることを期待

2つ目が出張授業への挑戦です。これまで、(株)ロッテでは小学校への教材提供が中心で、出張授業はわずかしか行っておりませんでした。一方で、学習指導要領が改訂されるなど、学校における食育の重要性が増しており、食品メーカーである私たちがお役に立てることが少なからずあるのではと思い、新たに出張授業に挑戦することを決めました。

出張授業を多くの学校で展開するためには、講師の確保が課題です。この課題の解決策として、社員の講師化を計画しています。負担が偏らないように、広く様々な部署の社員に

工場見学の刷新にあたって最も大切にしていることは、きちんと食に関する体験学習の場としての役割を果たすことです。稼働している製造設備を間近でご覧いただきながら理解を深めていただくことが一番良いのですが、メンテナンスなど生産の都合で稼働していない場合もあります。そのような時でも映像等で補完し、見学体験をお届けできるよう、最新技術を活用した見学設備を導入する予定です。

こうした最新技術の活用による感動体験をお届けすることで、地域の皆様に愛され、地域の発展にもお役に立てるような工場見学を目指していきます。まずは、2021年中のリニューアルオープンを目指して浦和工場の刷新に取り掛かっています。是非ご期待ください。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年2月より工場見学を休止しております。再開時期については、決まり次第ホームページでお知らせします。

講師となってもらい、学校へ派遣します。この取り組みにより、社員自身が食育やESG経営についての理解を深めるとともに、普段なかなか接点のない消費者の方々と直接触れ合うことで、私たちの存在意義を見つめ直す良い機会となることを期待しています。



株式会社ロッテ
経営戦略本部 食育推進部長

池田 なつき

Profile

1998年、(株)ロッテ入社。中央研究所にてチューインガムおよびキャンディの研究開発に携わる。2019年より現職で、新設された食育推進部の立ち上げを行っている

3 環境



基本的な考え方

地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責任の1つと捉えています。中でも「低炭素社会」と「循環型社会」の実現に向けた貢献を重点的に取り組む課題と位置付けています。今回は、そうした活動の一例として工場でのCO₂排出量削減の取り組みについてご紹介します。

低炭素社会

エネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2)削減率

P36

2023年目標



2028年目標



(注) 2013年度比 原単位

循環型社会

FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)発生量削減率

P38

2028年目標

50%以上
削減



(注) 2019年度比 原単位

生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率

P38

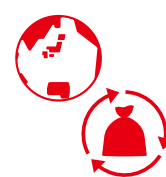
2023年目標

99%以上
(国内)



2028年目標

99%以上
(国内+海外)



CO₂排出量削減を通じて、財務・非財務の両面から企業価値向上に貢献していく

従来の延長線上では目標達成は難しく、より一層の挑戦が必要

グループのエネルギー起源CO₂排出量は(株)ロッテの工場が半分以上を占めており、ESG中期目標の達成のためには工場での取り組みが不可欠です。これまで、地道な省エネルギー活動や生産拠点の統廃合による効率化などを進めてきましたが、従来の延長線上では目標達成は難しく、より一層の挑戦が必要と感じています。この解決策として、(株)ロッテの工場が進めているのが再生可能エネルギーの導入とエコファクトリー化です。

再生可能エネルギーの導入は、すでに(株)ロッテの本社ビル(新宿区)で2019年4月よりスタートしており、発電の際にCO₂を排出しない水力発電由来の電力を調達しています。2020年からは段階的に工場でも導入を進め、エネルギー起源CO₂排出量を削減するとともに、国内における再生可能エネルギーの普及に貢献していきます。

エネルギーコスト削減にも注目して社内外に発信していきたい

一方で、すべてのエネルギーを再生可能エネルギーに転換することは、コストや供給の面から時間がかかります。そこで、エネルギーを効率よく使用することが必要なのですが、これまで地道に行ってきた無駄を徹底的に排除する省エネルギー活動は継続していくものの限界があり、抜本的な効率化に挑戦せねばなりません。そこで、私たちが取り組んでいるのが工場のエコファクトリー化です。(株)ロッテには高いエンジニアリング技術が蓄積されており、その経験とロッテバリューで掲げている「オリジナリティ(独創性)」のあるアイデアに、最新技術を組み合わせる独自のイノベーション「ロッテノベーション」に挑戦しています。例えば、浦和工場のチョコレート生産ラインに導入した新空調システムは、空間全体を冷却するのではなく、生産ラインや働く人のいる空間下部のみを冷却することで、温度管理が非常に重要な生産ラインでも大幅な省エネを実現することができました。また、狭山工場の製品倉庫では、従来のパレットよりも大幅に厚みを圧縮したシー

トパレットをタブレット端末や遠隔監視システムとともに導入し、積載効率の向上や省人化、出荷作業の時間短縮などを実現しています。これにより、自社はもちろん、物流における効率化にも貢献できました。

エコファクトリー化では、エネルギー効率の向上はもちろん、それに伴うエネルギーコスト削減にも注目して社内外に発信していきたいと思っています。これによって私が目指しているのは、エコファクトリー化をきっかけに、ESGに関する取り組みが非財務だけでなく財務と一体となって企業価値の向上に貢献するものだということを社員一人ひとりに理解してもらうことです。

株式会社ロッテ
生産本部 技術開発部長

内藤 克明

Profile

1989年、(株)ロッテ入社。浦和工場にて生産設備の導入や保全等の工場設備関連業務に広く携わる。2018年より現職で、新設された技術開発部の責任者として、各工場の生産設備の標準化や最適化、エコファクトリー化を推進中



4

持続可能な 調達



基本的な考え方

高品質な製品・サービスを安定的にお客様にお届けするためには、安全・安心であることはもちろん、環境や社会にも配慮した、持続可能な原材料の調達が重要だと考えています。これを実現するため、取引先や業界内外のステークホルダーと連携して、サプライチェーン全体で持続可能な調達活動を推進しています。今回は、そうした活動の一例としてカカオ豆の調達活動についてご紹介します。

カカオ豆

フェアカカオ使用率

P42

2023年目標

20%以上



2028年目標

50%以上



パーム油

第三者認証油使用率

P43

2023年目標

100%
(国内)



2028年目標

100%
(国内+海外)



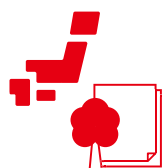
紙

環境に配慮した紙使用率(容器包装)

P44

2023年目標

100%
(国内)



2028年目標

100%
(国内+海外)



産地の経済的・社会的発展を支援することで、カカオ豆のサステナビリティに貢献する

カカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する活動を推進

カカオ豆の約7割を生産する西アフリカ地域では、森林の伐採や不適切な農薬の使用による生態系や環境の破壊、また、劣悪な労働環境や子どもたちが労働力とみなされて就学の機会を失うなど、様々な社会・環境問題が指摘されています。

カカオ豆を主原料とするチョコレートが主力製品である私たちは、カカオ豆の将来にわたる安定調達を実現するためにも、この問題に真摯に向き合い、対処していく必要があると考えています。

そのため、(株)ロッテでは、カカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する活動をFAIR CACAO PROJECT(フェアカカオプロジェクト)と名付けて推進しています。この活動は調達活動と生産地支援の大きく2つに分けられます。

サステナブルな好循環を生み出す仕組みを目指して

2つ目の生産地支援についてです。私たちはカカオ豆から製造する国内で数少ないチョコレートの一貫メーカーですが、世界のカカオ豆の流通量からするとその調達量はごくわずかで、私たちだけでできることは限られています。そこで、国内外の業界団体と協力して生産地の支援活動を行っています。一例を挙げますと、カカオ農家を支援しサステナブルなカカオのサプライチェーンの実現を目指し2000年に設立された会員制の国際団体World Cocoa Foundation(WCF 世界カカオ財団)に加盟し、カカオ農家の技術支援や、劣悪な労働環境の是正、児童労働のない社会の実現を目指した活動に協賛しています。

1つ目の調達活動についてですが、サプライヤーや生産地域の協力を得ながら地域指定購入を始めました。これは、高品質なカカオ豆を安定して調達するとともに、カカオ豆の購入代金の一部をその地域に還元するシステムを構築し、支援をしながら調達を行うものです。このように調達したカカオ豆をフェアカカオと名付けて、その調達割合の拡大をESG中期目標で掲げています。今後は、目標の達成に向けて、これまでの活動をさらに推進するとともに、政府機関、カカオ生産国企業との協業や私たち自身がサプライチェーンの上流で活動することも検討していきます。



今後は、これら生産地支援と調達活動を一体化するロッテ独自の取り組みも検討していきます。カカオ農家、生産地域への支援を行うとともに、サプライチェーン全体の問題に向き合い、カカオ豆の品質や収穫量の向上が農家の収入向上につながり、さらに農業技術が高まっていくというようなサステナブルな好循環を生み出す仕組みを目指していきます。また、このカカオの取り組みをきっかけに、社員一人ひとりが社会と私たちロッテのサステナビリティについて考える機会になればと思います。



株式会社ロッテ
生産本部 資材部長

佐々木 敦

Profile

1988年入社し、(株)ロッテおよび関連会社にて貿易業務や不動産開発等に従事。1994年から現部署にてチョコレート原料を担当。2013年より現職で、原材料の調達・購買業務と持続可能な調達活動を統括

5

従業員の 能力発揮



基本的な考え方

事業を支える最も重要な基盤は人材です。私たちは、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、いきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展へとつなげていきます。今回は、そうした活動の一例としてダイバーシティの取り組みについてご紹介します。

ダイバーシティ

女性管理職比率 (国内)

P28

2023年目標

10%以上



2028年目標

20%以上



働き方改革

一人当たり年間総労働時間 (国内)

P29

2023年目標

1,850時間
以下



2028年目標

1,800時間
以下



エンゲージメント

働きがいを感じている社員割合 (国内)

P31

2023年・2028年目標

80%以上



まずは女性活躍から、そしてあらゆる人が働きやすい会社へ

多様性こそが私たちの競争力の源泉であり、ロETTEノベーション創出の原動力

ダイバーシティを推進する理由は、多様性こそが私たちの競争力の源泉であり、ロETTEノベーション創出の原動力だからです。戦後に創業した後発メーカーである私たちは、差別化によるイノベーションによって成長してきました。しかしながら、市場が成熟し、外部環境が激変する今日では、従来通りのやり方のままではイノベーションの創出は難しくなっており、性別や年齢、国籍等に関係なく多様な人材が持てる能力を発揮できる環境を整えることが不可欠だと感じています。例えば、私たちの事業の中心である菓子やアイスクリームをご購

入いただいているお客様の多くは女性です。また、年代の切り口で見ると、私たちの事業はお子様からシニア世代まで幅広い世代をお客様にするビジネスです。マーケットも国内に限らず海外まで広がっています。このような事業環境下では、意思決定の場に女性をはじめ様々な意見を持つ人が関わることの重要性をマーケティングの仕事をしている頃から感じていました。ダイバーシティを推進することによって、お客様の共感を得る力や、ロETTEノベーションを創出する力を支えていきたいと考えています。

人材育成や風土改革も併せて進めていく

国内グループの女性管理職比率は5.1%と、ESG目標として掲げた20%とは大きく乖離しているのが現状です。これまで、出産や育児などのライフイベントを経ても働き続けることができるように制度面の充実を行っており、(株)ロETTEの両立サポート体制は、法律で定められているよりも充実したものになっています。一方で、復帰した社員がキャリアを描くためには人材育成や風土改革も併せて進めていかなければなりません。例えば、責任の重い仕事を任せてはかわいそうだといった間違った善意の配慮から、ライフイベントを迎えた女性に責任ある仕事を任せないという例もあり、結果として女性管理職やその候補が少なくという状況を招いています。この状況を変えるべく、育児期社員を部下に持つ管理職を対象とした研修を行い、マネジメントによる活躍支援の後押しをしていきたいと考えています。また、男性社員の育休取得推進を行い、ライフイベントが女性だけのものという意識を変えたとともに、業務の属人化

を改善し、職場のチームワーク形成を促していきます。さらに、男性も育児に参加することを通して、私たちのビジネスそのものを考え直すきっかけになり、新たなイノベーションが創出されることを期待しています。

現在は、女性活躍にフォーカスして取り組みを行っていますが、女性はもちろん、男性も、育児や介護中の方や体調に不安のある方等も働きやすい会社になることを目指して取り組んでいます。また、今後は、障がいのある方や外国籍の方、LGBTの方などあらゆる人材が働きやすく、持てる能力を発揮できる職場環境を目指していく予定ですので、是非ご期待ください。

株式会社ロETTE
人事本部 いきいき活躍推進課長

森 若菜

Profile

2001年、(株)ロETTE入社。中央研究所にて食品成分の分析研究に携わる。その後、本社でチューインガムおよびチョコレートのマーケティング業務に従事。2019年より現職で、ダイバーシティ推進業務に携わりながら、自身も母親として仕事と子育てを両立中



有識者ダイアログ

目標ごとに詳細な記載があり、
透明性や誠実性を感じます

すべてのマテリアリティに真摯な姿勢で取り組んでいて、好感を持っています。目標ごとに実績や主な取り組みについて、詳細な記載があり、透明性や誠実性を感じます。今後は、取り組みがまだ十分でない内容についても、方針や計画などを開示することで、さらに情報開示が拡充されることを期待しています。また、様々な施策の苦労話や裏話も紹介してはいかがでしょうか。例えば、「食の安全・安心」では、国際基準に加えて独自の基準を設定しようとしています。先進的な取り組みだけに、試行錯誤した点なども、積極的に伝えてほしいです。「従業員の能力発揮」の女性活躍では、風土改革が遅れていたと自己反省を開示しています。真摯に取り組んでいるからこそその気づきだと思います。他社の参考にもなり、社会全体への波及も期待できます。

「持続可能な調達」では、フェアカカオプロジェクトを進められていますが、カカオ豆は熱帯性の植物で、生産地の多くは発展途上国や最貧国で、世界中の消費者や人権団体が注目している領域です。買い付け元など、一歩踏み込んだ情報を開示することで、活動の説得力が増すと思います。



赤羽 真紀子氏

CSRアジア株式会社
日本代表

経歴：早稲田大学で政治学と生物学を修める。様々な業種の多国籍企業のCSR担当として通算10年以上の経験を有し、スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)の各社で関連部署の立ち上げを手がける。2010年より現職

リコールの情報や内部通報などについて、開示している点が評価できます

2018年からダイアログに参加していますが、活動が年々充実してきていると感じています。サステナビリティレポートの情報も透明性が高まっており、リコールの情報や内部通報などについても、開示している点が評価できます。

「食と健康」の中で、食育に力を入れていくのは良いことだと思います。現在は、小学校の社会科見学を中心に受け入れられていると聞いていますが、児童養護施設やひとり親家庭など福祉の視点も取り入れて、学びの機会をさらに多くの子どもたちに広げてほしいです。加えて、食育を通じて様々なことを伝えられると思います。例えば、賞味期限に関する正しい知識を伝えることは、食品ロスの削減にもつながります。また、カカオ豆の栽培からチョコレートの製造までの工程について伝えることができれば、子どもたちが社会や世界に目を向けるきっかけを提供できると思います。

「環境」について、再生可能エネルギーの積極的な活用については、素晴らしいと思いました。欧州の事例には、食品廃棄物をオフィスの電気など、再生可能エネルギーにリサイクルし、資源として活用しているケースもあります。これからも一層の取り組みを期待しています。



井出 留美氏

ジャーナリスト、食品ロス問題専門家
第2回食生活ジャーナリスト大賞
(食文化部門)受賞者

経歴：奈良女子大学食物学科卒、博士(栄養学 女子栄養大学大学院)、修士(農学 東京大学大学院農学生命科学研究科)。ライオン(株)、青年海外協力隊を経て日本ケロッグ広報室長等歴任。東日本大震災の際に、食料支援で食料廃棄に憤りを覚え、誕生日を冠した(株)office 3.11設立。日本初のフードバンクの広報を委託され、PRアワードグランプリソーシャルコミュニケーション部門最優秀賞へと導く。著書に『賞味期限のウソ 食品ロスはなぜ生まれるのか』、『あるものでまかなう生活』など

(株)ロッテでは、2018年より外部有識者の方をお招きし、ダイアログを実施しています。ダイアログでは、サステナビリティへの取り組みについて忌憚のないご意見や今後に向けたアドバイスをいただき、活動に反映しています。2020年は新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、オンラインにて実施しました。

正しい情報を、様々な場面で 発信していくことが重要だと思います

ダイアログの参加は3回目ですが、サステナビリティ活動は確実に進んでいると思います。「食の安全・安心」については、従来から高い水準で取り組まれている印象です。FSSC22000は、十分に質の高い認証ですが、さらにLOTTE ADVANCEを導入して、品質向上を図る姿勢が素晴らしいと思います。システムを取り入れるだけでなく、それが運用・確認できる体制を目指していることも、評価できます。

食は消費者の関心が最も高い分野の1つですが、科学的根拠に基づかない情報も多く出回っている状況です。日頃のコミュニケーションや食育活動、工場見学などを通じて、正しい情報を発信していくことは重要だと思います。特に、機能性表示食品については、品質保証をしっかりと行った上で、消費者の誤解を生まないような発信を引き続き意識してほしいと思います。

また、食品ロスも近年急速に関心が高まっていますが、業界の構造的な課題もあり、難しいテーマです。また、フードバンクなどの活動も以前よりは活発になっていますが、ボランティアが中心で体制はまだ十分とは言えません。事業者や行政がもっと協力して取り組んでほしいと思います。



浦郷 由季氏

一般社団法人全国消費者団体連絡会*
事務局長

経歴：大学卒業後、7年間の会社勤めの後、専業主婦として子育てをしながら生協の活動に関わる。生活協同組合ユーコープ、日本生活協同組合連合会の理事を経て、2017年5月より現職。厚生労働省、食品安全委員会、消費者庁、消費者委員会などの審議会等委員を務める（* 消費者団体の全国的な連絡組織で、くらしに関わる様々なテーマについて、審議会への委員参加やパブリックコメントの提出などを通じて消費者の立場から意見発信をしている）

事業活動とSDGsの各ゴールを結び付け、 しっかりと発信することが重要です

マテリアリティマップや3つのステップ、ESG中期目標は、非常に分かりやすいです。それぞれのマテリアリティに、貢献するSDGsが特定されていますが、実際にはより複合的に、様々なゴールに貢献していると思います。例えば、「持続可能な調達」は、貧困の解決や教育の普及にも貢献していないか、掘り下げて考えてみることもできると思います。

企業がSDGsの達成に貢献していく上で重要なのは、事業活動とSDGsの各ゴールを結び付け、しっかりと発信することです。例えば、チョコレートを食べることで国際NGOを通してカカオの産地を支援できるなど、製品がある社会課題の解決に貢献しているかどうかは、消費者の購買行動にも影響を与えます。特に、若い世代は、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の蔓延を経験して、社会の連帯感や助け合いの重要性を感じている人が多く、エシカル消費もますます増えると思います。

また、アフターコロナという言葉が注目を集めています。感染拡大防止のために行っている在宅勤務やWEB会議などを、収束後に新しい働き方として定着させ、労働生産性の向上につなげられることを期待しています。



蟹江 憲史氏

慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 教授

経歴：慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士（政策・メディア）。北九州市立大学助教授、東京工業大学大学院 社会理工学研究科准教授を経て、2015年より現職。2013年度からは、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクトS-11（持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究プロジェクト）プロジェクトリーダーを3年間務めた。2014年より国連大学サステナビリティ高等研究所シニアリサーチフェロー、2020年より同非常勤教授を務める

有識者ダイアログ

競争力向上のための取り組みは、
もっと開示を充実させるべきです

マテリアリティやESG中期目標を拝見して、全体的に真っ当で、重要なポイントも押さえられていると思います。マテリアリティ策定にあたって、しっかりとガイドラインを使用している評価できます。

企業は価値を創造して、評価されて、発展していく存在です。そのためサステナビリティ活動は、網羅性、マテリアリティ、競争力の3つが重要だと考えています。競争力向上のための取り組みは、もっと開示を充実させるべきです。例えば、咀嚼についてです。ガムで創業した会社ならではの視点で、健康とのつながりも明らかになっていることから高齢化社会でも非常に注目されています。そのことをしっかりと訴求することで、従業員も強みであることに気づき、新たなアイデアも出しやすくなると思います。

「従業員の能力発揮」については、働きがいを感じている社員割合は決して高いとは言えません。強く活発な組織を作るためには、パーパスが重要だと考えています。従業員参加型でパーパスを策定するなど、一体感を持った上で、イノベーションの生まれやすい自己変革ができるような強い組織を目指してほしいです。



ピーター D. ピーダーセン氏

一般社団法人 NELIS 共同代表
大学院大学至善館教授

経歴：デンマーク生まれ。コペンハーゲン大学文化人類学部卒業。1984年から日本での活動を開始。2000年に(株)イースクエアを共同創業、代表取締役社長に就任。2011年同社共同創業者に。2014年からは(株)トランスエージェント内リーダーシップ・アカデミー TACL 代表に就任。2015年からは(一社)NELIS 次世代リーダーのグローバル・ネットワークの共同代表に就任。2015年より現職。2019年より大学院大学至善館教授を務める

ダイアログを受けて

私たち自身の価値を見つめ直し、
取り組みや発信に活かすべきだと
再認識いたしました

ダイアログを通して、皆様から当社に対する強いご期待を感じ、改めて気持ちを引き締めてまいります。ご指摘いただきましたように、フレームワークや先行事例に学びながら取り組みを進めると、どうしてもロッチェらしさに欠けがちになってしまいます。やはり私たち自身の価値を見つめ直し、取り組みや発信に活かすべきだと再認識いたしました。特に「食と健康」は、私たちが大切にしてきたロッチェバリューを具現化するテーマであり、私たちにしかできない取り組みを加速させることで、皆様のご期待に応えられるよう努めてまいります。

また、新型コロナウイルス感染拡大はサステナビリティにも大きな影響を与えました。在宅勤務など新しい働き方が半ば強制的に始まり、一気にスタンダードとなる転換期となっています。このように世の中が不安定な状況下においても、私たちのお菓子やアイスクリームが皆様の心と身体の癒しに少しでも貢献できていると実感しています。これからも世の中から必要とされる会社でいられるよう、サステナビリティへの取り組みをさらに推進してまいります。



坂井 建一郎

株式会社ロッチェ
上席執行役員
経営戦略本部長

2019年度 活動報告

ISO26000の 7つの中核主題に基づく サステナビリティ 活動報告

(株)ロッテでは、社会的責任に関する国際ガイダンス規格であるISO26000を、サステナビリティ活動の課題整理に活用しています。ISO26000の7つの中核主題「組織統治」「人権」「労働慣行」「環境」「公正な事業慣行」「消費者課題」「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」に沿って、(株)ロッテおよび子会社のサステナビリティ活動をご紹介します。

26 組織統治

27 人権

28 労働慣行

36 環境

42 公正な事業慣行

46 消費者課題

53 コミュニティへの参画およびコミュニティの発展

組織統治

私たちは、企業理念をすべての基本とし、企業活動を行ってきました。今後も、様々なステークホルダーから信頼される企業であるために、コーポレート・ガバナンスのより一層の強化を進め、持続的な成長と企業価値の向上を目指していきます。

コーポレート・ガバナンス

2020年7月1日現在

機関設計の形態	監査役会設置会社
取締役の人数 (うち社外取締役人数)	8名 (社外取締役4名 うち女性1名)
監査役の人数 (うち社外監査役人数)	3名(社外監査役2名)
執行役員人数	15名
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ
内部監査部門	監査部

リスクマネジメント

▶ 危機管理体制

各部門からの代表者で構成される危機管理委員会が、全社のリスクマネジメントを統括する役割を担っています。危機管理委員会では、顕在化した際の被害を最小限に抑えるための対策だけでなく、リスクを未然に防ぐために、社内外の環境を考慮して、事業活動を行う上で顕在化し得るリスクを評価しています。

▶ 大規模災害への対策

東日本大震災を踏まえて、2012年に大規模災害対応マニュアルを策定しました。本マニュアルでは、地震などの大規模災害発生時に従業員が安全を確保し、二次災害を防止するなど冷静に行動するためのガイダンスを示しているほか、普段の備えについても説明しています。また、災害などが発生した場合に、速やかに事業を復旧し継続するために、事業継続計画(BCP)を策定しています。

企業理念

▶ 理念の浸透

企業理念浸透のため、事業所への掲示や役員からの継続的な発信に加え、創業の精神や企業理念に込められた想いを伝えるWEBブックを制作し、従業員がいつでも見られるようにしています。また、子会社などには同内容の冊子を配布して理念の共有と浸透を図っています。



海外子会社向け多言語版冊子
(7か国語：英語、日本語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、中国語、ポーランド語)

▶ ロッテアワード

企業理念のロッセバリューである「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(独創性)」「クオリティ(最上の品質)」を体現している優秀な取り組みを表彰するロッセアワードを毎年実施しています。これにより、従業員のモチベーションアップを図るとともに、企業理念の理解・浸透とそれに基づいた行動を促進しています。また、2018年度よりESG賞を新設し、サステナビリティ活動の従業員への啓発の一助としています。



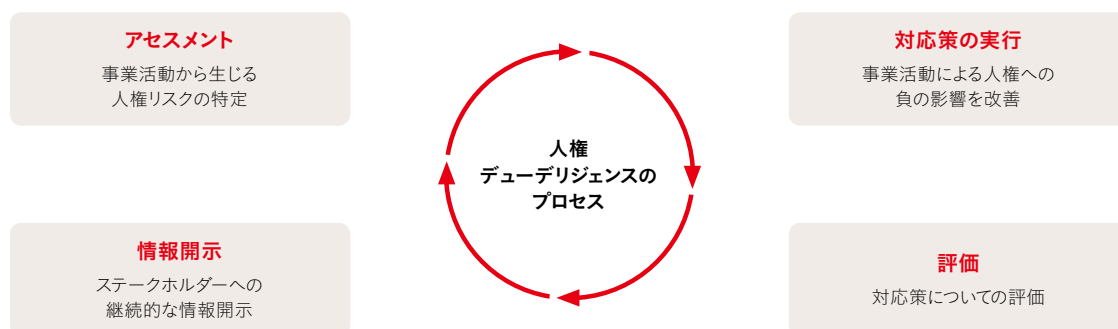
人権

私たちは、人権の尊重を前提にすべての企業活動を行っています。直接的な人権侵害を一切行わないことはもちろん、ステークホルダーと協力し、事業活動が間接的に人権侵害に加担することがないように努めています。

関連するポリシー 人権方針

人権デューデリジェンス

事業とサプライチェーン全体で影響を受ける人々の人権尊重のため、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」の手順に従い、人権デューデリジェンスの実進を進めています。



▶ 人権リスクアセスメントと実態把握調査

国際基準やガイドライン*1に基づき、事業活動から生じる人権リスクについてアセスメント*2を実施し、潜在的な人権課題を抽出しました。抽出された人権課題について、(株)ロッテおよび子会社、サプライヤー等に対して質問票を用いた実態把握調査を行い、優先的に取り組むべき人権課題を特定しました。

*1 国連グローバル・コンパクト10原則、GRIスタンダード、国連ビジネスと人権に関する指導原則、責任ある企業行動のためのOECDデュー・デリジェンスガイダンス等。
*2 データポイントとして、ITUC-Global Rights Index、Global Slavery Index等を使用。

▶ 特定した人権リスク

人権リスクアセスメントと実態把握調査から、以下の人権リスクを特定しました。今後は、これらの人権リスクに対する対応策を立案・実行するとともに、その進捗状況について開示を進めていきます。

人権リスク

自社オペレーション	差別的禁止とハラスメントの防止
サプライチェーン (カカオ豆、パーム油)	差別的禁止とハラスメントの防止 強制労働および児童労働の禁止 労働者の基本的権利の尊重 先住民および地域住民の権利尊重

上記人権リスクに関連する取り組みは、労働慣行(P28~)および公正な事業慣行(P42~)に掲載しています

従業員への啓発

▶ 研修

(株)ロッテでは、社員を対象にハラスメント防止研修を順次実施しており、2019年度は約1,600人が受講しました。あらゆる差別およびハラスメントを禁止した人権方針に従って、ハラスメントに関する理解を促進し、ハラスメントのない職場環境を実現することを目的に研修を行っています。また、万が一、被害にあった際の相談窓口や相談フローについても説明しています。

さらに、新任マネージャーを対象に、弁護士を招いて判例や事例に基づいてハラスメントや労務管理知識を学ぶ研修を行ったほか、新入社員を対象にハラスメントの相談窓口についての研修を行いました。

▶ 相談窓口の設置

(株)ロッテでは、内部通報制度の窓口であるクリーンライン(P45 内部通報制度参照)を社内外に設置し、従業員からの相談および通報を受け付けています。

労働慣行

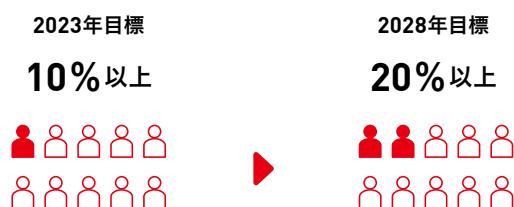
事業を支える最も重要な基盤は人材です。私たちは、従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、心身ともに健康でいきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展を目指しています。

関連するポリシー 人事方針

ダイバーシティ

▶ 中期目標と実績

私たちは、ダイバーシティの推進に対する取り組みの一環として、2023年度までに国内の女性管理職比率を10%以上にする事、さらに2028年度までに20%以上にする事を目標に掲げています。



女性管理職比率

2018年3月末時点	5.0%
2019年3月末時点	5.3%
2020年3月末時点	5.1%

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー
管理職基準の変更に伴い、過去報告値を見直しています

▶ 女性活躍の推進

多様な人材が持てる能力を最大限に発揮できるようダイバーシティを推進し、イノベーションの創出を促進します。まずは、社会全体の喫緊の課題である女性活躍の推進に取り組み、誰もが働きやすい職場環境整備と風土改革を行うことで、多様な人材が活躍できる会社を目指していきます。

■ 女性管理職候補の育成

(株)ロッテでは、次世代の管理職候補である若手女性社員の意識向上を目的として、食品飲料6社合同女性活躍推進セミナーを2016年より毎年実施しています。自他社の女性管理職と交流を深めて管理職を身近に感じ、自身のキャリアを振り返り将来のイメージや活躍のヒントを得ることができると好評で、女性社員のマインドセットにつながる取り組みです。

■ 経営層からの発信

女性活躍の推進には経営メッセージの発信も重要だと考えています。2020年1月には、(株)ロッテの経営陣と100名以上の女性社員が参加してダイバーシティフォーラムを実施しました。女性活躍について経営からの期待を伝えると同時に、社内の女性管理職と交流する場を提供しました。



ダイバーシティフォーラムの様子

■ 出産・育児サポート

(株)ロッテでは、出産を迎える女性社員が安心して産休に入り、また、スムーズに職場復帰することができるようにサポートを行っています。上司が「出産・育児面談シート」による面談を実施して、妊娠中の体調の把握や業務の引き継ぎ計画、復帰後の働き方などについて、コミュニケーションが円滑にできるようにサポートしています。

育児支援制度の利用実績(2019年度)

育児休業取得者数	103人 (男性6人 女性97人)
育児休業後復職率	98% (男性100% 女性98%)
育児休業後定着率	100% (男性100% 女性100%)
育児時短勤務者数	124人 (男性2人 女性122人)

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー

▶ 障がい者の雇用

ダイバーシティ推進の取り組みの一環として、障がい者の雇用を推進しており、トイレの改修や段差の解消など、多様な人材が働きやすい職場環境の整備を進めています。

障がい者雇用率

2020年3月末時点	2.4%
------------	------

集計対象

株式会社ロッテ

▶ 高齢者の雇用

(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカムパニーでは、60歳の定年後も雇用を継続する定年再雇用制度を設けています。長年培った知識や技能で職務を遂行するとともに、後進の指導や育成の役割を担っています。

再雇用実績

2017年度	希望者数225人	再雇用率100%
2018年度	希望者数178人	再雇用率100%
2019年度	希望者数121人	再雇用率100%

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー

ライフ・ワーク・バランス

▶ 中期目標と実績

私たちは、ライフ・ワーク・バランスの実現に向け、2023年度までに国内のグループ会社に勤務する従業員一人当たり労働時間を年間1,850時間以下にすること、さらに2028年度までに年間1,800時間以下にすることを目標に掲げています。

2023年目標

1,850時間
以下



2028年目標

1,800時間
以下



従業員一人当たり実績

2018年度	年間総労働時間 2,015時間 時間外労働時間(管理職除く) 199時間 有給休暇取得日数 8.7日(取得率43.5%)
2019年度	年間総労働時間 1,977時間 時間外労働時間(管理職除く) 196時間 有給休暇取得日数 12.6日(取得率62.8%)

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー
管理職基準の変更に伴い、過去報告値を見直しています

▶ 柔軟な働き方による生産性向上

(株)ロッテでは、柔軟な働き方ができる様々な制度を導入し、ライフステージに関わらず多様な人材が活躍できる環境を整備しています。さらに、これらの制度を活用し、生産性向上による労働時間削減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指しています。

■ 働き方改革推進委員会の設置

(株)ロッテでは、生産性向上による労働時間削減を実行するためには、具体的な取り組みが必要と考え、2017年5月に働き方改革推進委員会を設置しました。

当該委員会は関連部署と連携しながら、適正な労務管理の推進や、残業時間の多い部署の業務改善サポートに取り組んでいます。

■ 在宅勤務制度

(株)ロッテでは、ICTを活用し時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方を推進し、労働生産性を高めるとともに、育児や介護など、ライフステージを迎えた際も安心して働き続けられることを目的として、在宅勤務制度を導入しています。

■ スライドワーク(時差出勤)制度

(株)ロッテでは、個々のライフスタイルに合わせて従業員が働きやすい環境を整備するとともに、早朝や夜の業務に効率的に対応することを目的として、個人単位で始業および終業時間を選択できるスライドワーク(時差出勤)制度を導入しています。

■ 有給休暇の取得促進

(株)ロッテでは、余暇の充実や自己研さんに充てる時間を創出し、ライフ・ワーク・バランスの実現を目的に、有給休暇の取得促進に取り組んでいます。年度初めに有給休暇の取得日を決めておく計画有休やリフレッシュ休暇などの制度があり、今後もさらに制度の拡充を検討しています。

■ 事業所内保育所の設置

子育てをしながら働く従業員が、仕事と家庭を両立し、安心して働き続けられることを目的として、浦和工場と狭山工場の敷地内に事業所内保育所「ハッピーマーチ保育園」を2018年4月より設置しています。



ハッピーマーチ保育園

Column アフターコロナを見据えた新たな働き方



荒川 直之

株式会社ロッテ
専務執行役員
人事本部長

はじめに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に罹患された方々にご家族の皆様に対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈り申し上げます。また、感染拡大防止や治療などに日々ご尽力されている皆様に深く敬意を表し、感謝申し上げます。

さて、2020年4月に発せられた緊急事態宣言下における対応ですが、製品を安定供給させるという当社の社会的責任を果たすべく、感染防止策と生産現場の徹底した衛生管理を講じながら事業を継続しました。生産などに直接関わらない従業員に関しては、業務上やむを得ない場合を除き在宅での勤務をお願いしました。以前より進めてきた働き方改革の一環として在宅勤務インフラの準備をしていましたが、今回の事態を受けて、当初の予定よりも前倒しでの導入を行いました。急な前倒しに対応してくれた関連部署の皆さんや、当初在宅勤務インフラが不十分な中でも知恵を出し合って事業継続に取り組んでくれた従業員の皆さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。

このように、段階的に導入する予定であった在宅勤務制度が、新型コロナウイルスの感染拡大によって半ば強制的に導入することになり、不便な面もありましたが、「やってみると意外とできた」「効率的に時間を使えるので継続したい」というポジティブな意見もありました。今後は、感染拡大防止と従業員とその家族の健康を守ることはもちろん、新たな働き方を活用して生産性とライフ・ワーク・バランスを両立させる第2ステップに取り組んでいます。さらに効率よく、柔軟な働き方ができるようにフレックスタイム制度を試験導入しました。また、新たな働き方に合わせた人事評価制度の検討も始めました。アフターコロナという言葉が注目を集めていますが、収束後に元の働き方に戻るのではなく、この間に培ったノウハウを活用し、より生産性と従業員満足の高い新たな働き方を模索することが私の使命と考え、今後も推進していきます。

従業員エンゲージメント

▶ 中期目標と実績

私たちは、社員が成長と働きがいを感じられる職場づくりに取り組み、2023年度までに国内のグループ会社に勤務する社員のうち働きがいを感じている割合を80%以上にする、さらに2028年度まで80%以上を維持することを目標に掲げています。

2023年・2028年目標

80%以上



人材育成

▶ 能力開発プログラム

私たちは、従業員一人ひとりの成長を促すことで、個性や能力を最大限に発揮していきいきと働くことが企業の成長、そして企業価値の向上につながると考えています。(株)ロッテでは、主体的に自分自身の成長に向けて努力する従業員を支援する様々な能力開発プログラムを整備しています。

研修実績(人事部主催の能力開発に関する研修)

2017年度	研修費用 53百万円 一人当たり年間平均研修時間 15時間
2018年度	研修費用 87百万円 一人当たり年間平均研修時間 15時間
2019年度	研修費用 89百万円 一人当たり年間平均研修時間 17時間

集計対象

株式会社ロッテ

集計基準の変更に伴い、過去報告値を見直しています

■ 階層別プログラム

従業員として必要とされる基本的な知識や心構えなどを習得する新入社員研修に始まり、仕事に必要なスキルアップや今後のキャリアを考える年次研修、昇格者に対するマインドセットやマネジメントの基礎を学ぶ研修など、従業員の成長段階と目的に合わせたきめ細かな階層別のプログラムを用意しています。また、並行して職場内での業務を通じたOJTも行っており、不

働きがいを感じている社員割合(社員意識調査より)

2017年調査	62.3%
2018年調査	59.1%
2019年調査	60.1%

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

▶ 社員意識調査

私たちは、従業員一人ひとりがいきいきと働き、自らの成長と働きがいを感じられる職場づくりが、個人および企業の成長、そして企業価値の向上につながると考えています。国内のグループ会社では、社員意識調査を毎年行い、社員の働きがいを定量的・継続的に把握し、課題把握と改善に向けて取り組んでいます。

安を感じることなく安心して活躍できる仕組みを整えています。

■ 部門別プログラム

各部門別に専門知識や技能を習得するための研修を行っています。

■ 自己選択型プログラム

主体的に自分自身の成長に向けて努力する従業員には、自己選択型の自己啓発の機会を多数提供しています。語学研修に加え、応募型のチャレンジスクールや通信教育を整備しており、幅広い知識や技能を習得できます。

■ 選抜型プログラム

次世代リーダーや次期経営人材の育成を目的とした研修をはじめ、広い視野を身に付けるための外部研修への派遣を行っています。また、女性活躍のための研修やグローバル人材育成のための研修も実施しています。グローバル人材の育成については、海外研修制度も設けており、応募者の中から研修生を選考し、海外子会社へ派遣しています。国内で経営知識や語学を習得した後、現地での実務経験や事業環境の研究などを行います。

◎ キャリア開発支援

■ キャリアプランを考える(自己申告制度)

(株)ロッテでは、年に一度、業務の負担感や適性、今後のキャリアプランなどについて上司と話し合う機会を設けています。従業員が今後のキャリアプランを考えるきっかけとなり、会社側は、一人ひとりの状況や適性、考えを理解し、活躍の機会の提供や育成に活用しています。

■ セカンドキャリア支援

(株)ロッテでは、50代の従業員に対して、セカンドキャリアプランをサポートする制度を用意しています。また、定年退職する従業員の希望者全員に定年後再雇用制度を運用しており、定年退職者の活躍を支援しています。

能力開発プログラム体系



健康経営

私たちは、会社の発展は従業員の健康とともにあると考え、心身ともに健康に働ける環境づくりを目的に取り組んでいます。

■ 推進体制

健康経営の推進は、人事本部労務部が中心となり、経営戦略本部CSR部の支援のもと、ロッテ健康保険組合と協力して実施しています。

■ 受動喫煙防止および禁煙

(株)ロッテでは、従業員の健康増進と安心して働ける職場環境づくりを目的に、各事業所の完全分煙および希望する従業員への禁煙サポートを行っています。

■ 運動習慣支援

(株)ロッテでは、従業員の運動習慣定着による健康増進を目的に、社内ウォーキングイベントを毎年開催しています。毎日の歩数を記録し、目標を達成した従業員には賞品を用意することで、参加意欲を高めています。

■ 健康状態の把握

(株)ロッテでは、従業員の心身の健康維持のため、健康診断およびストレスチェックの全員受診に取り組んでいます。2019年度の受診率は、健康診断が92.9%で、ストレスチェックが92.3%でした。

労働安全衛生

▶ 労働安全衛生体制

(株)ロッテでは、中央安全衛生委員会が中心となり、各事業所の安全衛生委員会と連携して、労働災害のリスク低減に取り組んでいます。また、労働災害の再発防止に向け、掲示や研修を活用した過去の事故事例の共有などの教育も推進しています。

▶ 労働安全衛生教育

(株)ロッテでは、労働災害を未然に防ぐため、様々な労働安全衛生教育を行っています。工場の新規入職者に対しては、基本的な安全教育と救命救急講習を実施しています。また、危険に対する感受性を養うことを目的として、体感教育ができる施設(安全道場)を使用した講習会を定期的を実施しています。さらに、事業所を越えて、危険についての情報を共有し、改善について話し合う危険予知訓練研修(KYT研修)を毎年実施しています。

▶ 安全監査・点検の実施

(株)ロッテでは、安全監査・点検を実施し、法令違反防止や労働災害のリスク低減に取り組んでいます。また、万が一、労働災害が発生した場合には、再発防止に向け、原因究明と対策を徹底しています。

労使関係

(株)ロッテでは、労働組合が組成されています。従業員に影響を及ぼす可能性のある変更を行う際には、労働組合と協議の上、労働組合および従業員の代表に事前に通知することを労働協約に定めています。

▶ 労働災害実績

労働災害が発生した場合は、徹底した原因究明と設備の安全点検や対策を行い、再発防止に取り組むとともに、事業所間での情報共有を行い、類似の災害の防止に努めています。

休業災害・重大災害被災者数

2017年度	休業災害24人、重大災害0人
2018年度	休業災害20人、重大災害0人
2019年度	休業災害18人、重大災害0人

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

労働災害による死亡者数

2017年度	0人
2018年度	0人
2019年度	0人

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

人事データ一覧

従業員の状況

▶従業員数(人)	2018年3月31日時点			2019年3月31日時点			2020年3月31日時点		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
グループ	10,149	—	—	10,461	—	—	10,393	—	—
従業員数	6,295	—	—	6,489	—	—	6,485	—	—
臨時従業員数	3,854	—	—	3,972	—	—	3,908	—	—
国内	5,858	—	—	6,021	—	—	5,899	—	—
従業員数	2,938	1,872	1,066	3,056	1,939	1,117	3,098	1,951	1,147
臨時従業員数	2,920	—	—	2,965	—	—	2,801	—	—
(株)ロッテ	4,487	—	—	4,700	—	—	4,628	—	—
従業員数	2,261	1,607	654	2,361	1,679	682	2,405	1,700	705
臨時従業員数	2,226	—	—	2,339	—	—	2,223	—	—
(株)メリーチョコレートカムパニー	1,371	—	—	1,321	—	—	1,271	—	—
従業員数	677	265	412	695	260	435	693	251	442
臨時従業員数	694	—	—	626	—	—	578	—	—
海外	4,291	—	—	4,440	—	—	4,494	—	—
従業員数	3,357	—	—	3,433	—	—	3,387	—	—
臨時従業員数	934	—	—	1,007	—	—	1,107	—	—
アジア	2,862	—	—	2,845	—	—	2,744	—	—
従業員数	2,592	—	—	2,520	—	—	2,441	—	—
臨時従業員数	270	—	—	325	—	—	303	—	—
欧米	1,429	—	—	1,595	—	—	1,750	—	—
従業員数	765	—	—	913	—	—	946	—	—
臨時従業員数	664	—	—	682	—	—	804	—	—

▶従業員の平均年齢(歳)	2018年3月31日時点			2019年3月31日時点			2020年3月31日時点		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内	38.5	39.2	37.3	38.8	39.5	37.7	38.3	38.9	37.3
(株)ロッテ	38.5	39.0	37.3	38.7	39.2	37.5	38.0	38.6	36.6
(株)メリーチョコレートカムパニー	38.6	40.5	37.4	39.2	41.2	38.0	39.5	41.3	38.5

▶従業員の平均勤続年数(年)	2018年3月31日時点			2019年3月31日時点			2020年3月31日時点		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内	14.9	15.5	13.7	15.0	15.8	13.7	14.3	15.0	13.1
(株)ロッテ	15.9	15.5	16.4	16.0	15.8	16.4	15.0	14.9	15.1
(株)メリーチョコレートカムパニー	11.7	15.4	9.4	11.7	15.7	9.5	12.0	15.7	10.0

採用と退職の状況

▶ 採用者数(人)	2017年度			2018年度			2019年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内総数	171	87	84	222	113	109	199	103	96
新卒	135	78	57	164	94	70	169	92	77
中途	36	9	27	58	19	39	30	11	19
(株)ロッテ	128	75	53	151	97	54	156	93	63
新卒	119	72	47	141	89	52	148	86	62
中途	9	3	6	10	8	2	8	7	1
(株)メリーチョコレートカムパニー	43	12	31	71	16	55	43	10	33
新卒	16	6	10	23	5	18	21	6	15
中途	27	6	21	48	11	37	22	4	18

▶ 退職者数(人)	2017年度			2018年度			2019年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
国内総数	131	69	62	147	76	71	126	71	55
定年	40	26	14	51	29	22	28	27	1
自己都合	91	43	48	96	47	49	98	44	54
(株)ロッテ	87	60	27	88	62	26	70	51	19
定年	20	20	0	20	20	0	22	21	1
自己都合	67	40	27	68	42	26	48	30	18
(株)メリーチョコレートカムパニー	44	9	35	59	14	45	56	20	36
定年	20	6	14	31	9	22	6	6	0
自己都合	24	3	21	28	5	23	50	14	36

▶ 離職率(%)	2017年度			2018年度			2019年度		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
(株)ロッテ	2.7	2.2	3.9	2.7	2.3	3.7	1.9	1.7	2.5
新卒者3年未満(%)	0.4	0.4	0.4	0.7	0.7	0.8	0.7	0.4	1.2

環境

地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責務の1つと捉え、事業活動から生じる環境負荷の継続的な低減に取り組んでいます。

関連するポリシー 環境方針

CO₂排出量の削減

① 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに主な温室効果ガスであるエネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2*)対売上高原単位を2013年度比で13%以上削減すること、さらに2028年度までに26%以上削減することを目標に掲げています。

* GHGプロトコルに基づく排出量の算出範囲
Scope 1: 事業者自らによる直接排出
Scope 2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
Scope 3: サプライチェーンに関わる Scope 1、2以外の間接排出

2023年目標



2028年目標

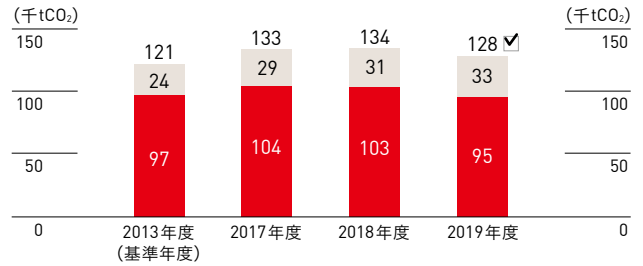


(注) 2013年度比 原単位

■ Scope1、2

2019年度のエネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2)対売上高原単位は、基準年度の2013年度に対して7.1%削減となり、前年度より3.1ポイント改善しました。継続的な省エネルギー活動に加え、工場への高効率設備導入や本社ビルにおける再生可能エネルギーへの切り替えが寄与しました。

エネルギー起源CO₂排出量

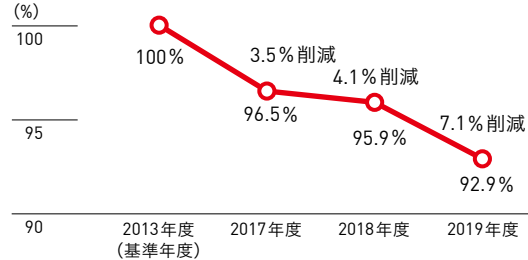


連結子会社の異動および移動排出源を新たに集計対象としたことに伴い、過去報告値を見直しています。また、過去報告値の一部は推計値を含んでいます。

■ 国内 ■ 海外

✓の付された数値はデロイトトーマツサステナビリティ株式会社の第三者保証を受けています(P60参照)。

エネルギー起源CO₂排出量原単位* 基準年度比



* 原単位 = CO₂排出量 / 売上高

集計対象

国内: 株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

海外: 主要な海外子会社 (THAI LOTTE CO., LTD.、LOTTE VIETNAM CO., LTD.、PT. LOTTE TRADE AND DISTRIBUTION、PT. LOTTE INDONESIA、LOTTE Wedel sp. z o.o.)

算定方法

Scope 1: 排出量 = Σ (燃料使用量 × CO₂排出係数)

Scope 2: 排出量 = Σ (購入電力量等 × CO₂排出係数)

CO₂排出係数

国内: Scope1は地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出係数を、Scope2は同法律に基づく電気事業者別の排出係数を利用しています。

海外: Scope1は2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventoriesの排出係数を、Scope2はIEA Emission Factors 2019の排出係数を利用し、これらが入手困難な場合は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく排出係数を利用しています。

Scope3

温室効果ガス排出量(千tCO₂)

カテゴリ	2019年度
1. 購入した製品・サービス	483
2. 資本財	72
3. Scope1、2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動	17
4. 輸送、配送(上流)	57
5. 事業から出る廃棄物	1
6. 出張	0.4
7. 雇用者の通勤	0.9
8. リース資産(上流)	—*
9. 輸送、配送(下流)	40
10. 販売した製品の加工	—*
11. 販売した製品の使用	—*
12. 販売した製品の廃棄	96
13. リース資産(下流)	—*
14. フランチャイズ	—*
15. 投資	—*
合計	768

*算定対象外

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

算定方法

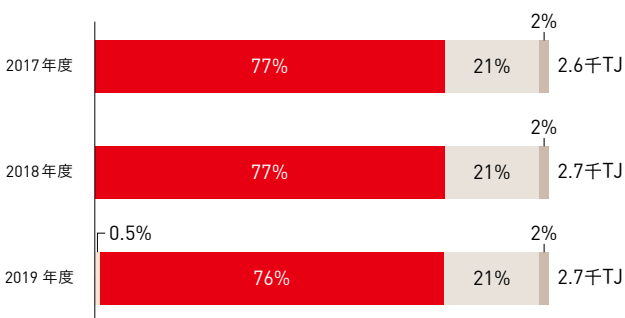
環境省および経済産業省のサプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドラインを参考に算定しています。

CO₂排出係数

環境省のサプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース(Ver.3.0)を利用し、入手困難な場合は、カーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベース(ver.1.01)を利用しています。

エネルギー投入量実績

エネルギー投入量



再生可能エネルギー ■ 購入電力 ■ ガス類 ■ その他

連結子会社の異動および移動排出源を新たに集計対象としたことに伴い、過去報告値を見直しています。また、過去報告値の一部は推計値を含んでいます。

集計対象

エネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2)と同じ

再生可能エネルギーの導入

(株)ロッテの本社ビル(新宿区)では、2019年4月より100%水力発電由来の電力であるアクアプレミアムを導入しており、工場でも順次導入を進めています。アクアプレミアムは東京電力グループの提供する電力メニューで、再生可能エネルギーである水力を使用しており、発電の際にCO₂を排出しません。今後も、再生可能エネルギーの導入によって温室効果ガスの排出を抑制し、地球温暖化の防止に貢献していきます。



(株)ロッテの本社ビル

物流における取り組み

(株)ロッテでは、物流に伴う環境負荷の低減に取り組んでいます。荷姿の工夫による積載効率の向上に努めるとともに、共同配送*1やモーダルシフト*2を推進することで、CO₂排出量の削減に努めています。

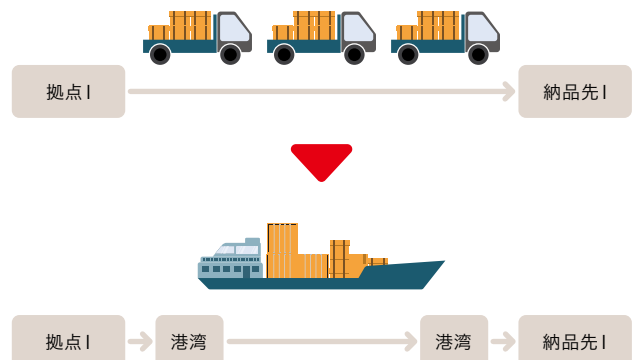
*1 共同配送

同業他社や運送業者、倉庫業者などと協力し、商品の配送を共同で行うことをいいます。配送に関わるトラックの必要台数を減らすことで、CO₂排出量の削減につながります。



*2 モーダルシフト

トラックによる配送を環境負荷が低く大量輸送が可能な海運または鉄道に転換することをいいます。(株)ロッテでは、この一環として海運の活用を推進しており、現在は九州から大阪および、東京から北海道への輸送に海運を使用することでCO₂排出量の削減に努めています。



冷媒(フロン類)

(株)ロッテの工場では、冷蔵・冷凍設備等で冷媒としてフロン類を使用しています。フロン類の漏えいが地球温暖化に影響することを踏まえ、設備の定期点検によって正しく管理することでリスクの低減に努めながら、代替フロンや自然

冷媒への転換を計画的に行っています。すでに、浦和工場では2019年に自然冷媒であるCO₂を用いたアイスクリームフリーザーを世界に先駆けて導入しました。

廃棄物の削減とリサイクル

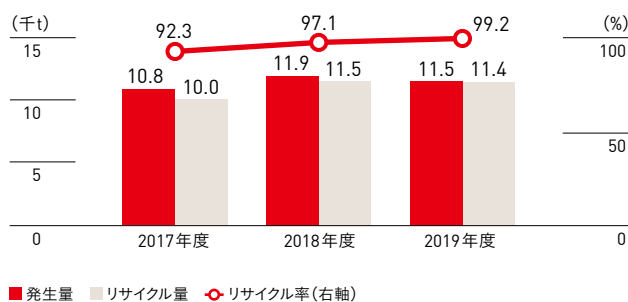
▶ 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに国内工場の生産工程から排出される廃棄物を99%以上リサイクルすること、さらに2028年度までに国内外すべての工場でも実現することを目標に掲げています。



2019年度に国内の主な拠点から排出された廃棄物は11.8千tでした。このうち生産工程から排出された廃棄物は11.5千tで、リサイクル率は99.2%となり、2023年目標を達成することができました。今後も、廃棄物の発生抑制のためにバリューチェーン全体で取り組むとともに、適切なリサイクルを推進し、リサイクル率99%以上を維持していきます。

生産工程から排出された廃棄物の発生量およびリサイクル率



■ 発生量 ■ リサイクル量 ◆ リサイクル率(右軸)
集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)の削減

▶ 中期目標と実績

私たちは、2028年度までに本業である菓子・アイス事業においてFLW(食品ロスおよび食品廃棄物)発生量対販売量原単位を2019年度比で50%以上削減することを目標に掲げています。



(注) 2019年度比 原単位
10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブと基準を統一するために、計測方法および目標の見直しを行いました。

FLW発生量および原単位*

2019年度 FLW発生量2.9千t、原単位0.011

* 原単位 = FLW発生量 / (販売量 + FLW発生量)

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー、主要な海外子会社

FLW発生量測定方法

FLW発生量 = 自社工場での食品および不可食部分の廃棄量 + 出荷前および返品された製品の廃棄量

WRI Food Loss & Waste Protocolを参考に測定しています。

送り先のうち、動物の飼料および生物由来物質 / 生化学処理は他の送り先に比べ相対的に価値が高いため、目標の対象とするFLWには含めていません。

発生抑制の取り組み

FLWの削減は、まず発生を抑制させることが重要です。そのために、需給予測の精度向上、賞味期限の延長や年月表示化、生産工程でのロス削減などに取り組んでいます。また、10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ*日本プロジェクトに参加し、サプライチェーン全体で取り組みを行うとともに、様々な企業との情報交換を行いながらFLW半減の目標に向かって取り組んでいます。

* 10×20×30食品廃棄物削減イニシアティブ

地球環境と開発に関する政策研究・技術開発を行うアメリカのシンクタンク World Resources Institute (WRI)の呼びかけのもと、サプライチェーン全体で食品廃棄物の半減を目指すイニシアティブです。「10×20×30」とは、世界の大手小売業等10社が、それぞれの20社のサプライヤーとともに、2030年までに主要サプライヤーの食品廃棄物の半減に取り組むということを意味します。日本プロジェクトでは、イオン(株)が大手小売業として取り組みを主導し、(株)ロッテはそのサプライヤーとして参加しています。



有効活用の取り組み

食べ物に困っている人や福祉施設などに食品を無償で提供する取り組みをフードバンクといいます。私たちはこの活動に賛同し、NPO法人を通じて自社製品寄贈の協力を行っています。この取り組みは、「おいしい」「たのしい」という食の喜びを伝える一助となるだけでなく、食の有効活用にもつながる有意義な取り組みと考え、今後もフードバンク活動への協力を継続していきます。

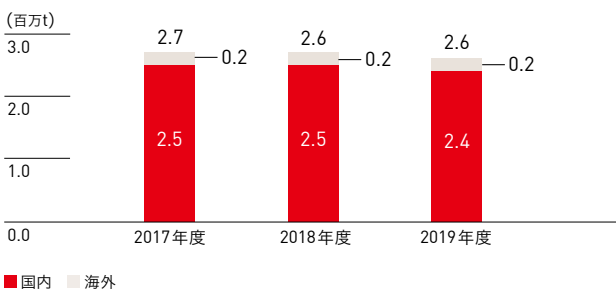


フードバンク活動の様子

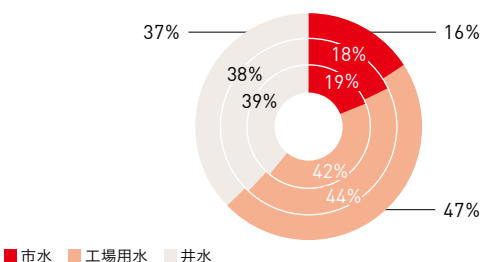
水資源

水使用量実績

水使用量



水使用比率(内:2017年度 中央:2018年度 外:2019年度)



集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニーの主要な拠点、主要な海外子会社の工場

水リスク

WRIのAQUEDUCT Water Risk Atlasを使用して水リスク評価を行っており、(株)ロッテおよび子会社の自社工場所在地のリスクレベルはExtremely Highのレベルにはないことが分かりました。引き続き現地情報のヒアリングや水使用量などの継続的な評価を行い、リスク低減の対策を検討していきます。

原材料

① 原材料調達実績

製品の原材料調達量(千t)

	2017年度	2018年度	2019年度
原材料合計	271	275	275
原料	201	204	206
包材	70	72	69
紙	50	52	49
プラスチック	14	14	15
その他	5	5	5

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー、主要な海外子会社

② 容器包装の環境配慮

(株)ロッテでは、製品の容器包装は環境に配慮して設計しています。本来の機能である品質保護性を担保した上で、できるだけ原材料の使用量を削減するなどの省資源化や、リサイクルしやすい容器包装の開発に取り組んでいます。また、バリア性を向上させることによって賞味期限を延長させ、FLWの削減にも取り組んでいます。さらに、製品を効率的に積載することにより物流効率を高め、輸送による温室効果ガスの排出量削減に貢献できるよう設計しています。

環境マネジメント

① 環境活動

■ 推進体制

(株)ロッテ経営戦略本部CSR部が事務局となり、グループ全体の環境活動を推進しています。また、(株)ロッテの経営会議では、環境に関する重要な方針や中期目標の検討、目標の進捗確認などを行っています。さらに、(株)ロッテの工場(浦和工場、狭山工場、九州工場、滋賀工場)では、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、これに基づいたマネジメントを行っています。

■ プラスチック容器包装に対する考え方

近年、プラスチックについては、気候変動およびプラスチックごみによる海洋汚染などについて世界規模で議論されています。(株)ロッテでは、ロッテプラスチック基本方針を策定し、プラスチックの資源循環に貢献できるよう取り組みを推進しています。プラスチック使用量の削減とともに、取引先と協力してプラスチックの資源循環に貢献できる新技術の開発にも取り組みます。

ロッテ プラスチック基本方針

- 石油由来プラスチックの使用量削減に努めます。
- リサイクル原料の使用を推進し、プラスチックの資源循環に貢献します。
- リサイクルしやすいプラスチック包材(モノマテリアル)の使用を推進し、プラスチックの資源循環に貢献します。

■ 紙容器包装に対する考え方

紙の容器包装についてもプラスチックと同様に、できる限り使用量を削減し、省資源化に努めています。また、使用する紙原料については、再生紙やFSC(森林管理協議会)認証などの第三者認証紙といった環境に配慮した紙原料の使用を進めています(P44 重要原材料③紙参照)。

■ 環境監査

(株)ロッテの工場(浦和工場、狭山工場、九州工場、滋賀工場)では、環境に関する内部監査を毎年実施しています。内部監査は社内で認定された主任監査員および監査員が、ISO14001に基づいたチェックリストに照らして行っています。監査で指摘された改善の機会を踏まえ、各工場では継続的な改善に努めています。

改善の機会の指摘数

2017年度	102件
2018年度	98件
2019年度	60件

集計対象

株式会社ロッテ浦和工場、狭山工場、九州工場、滋賀工場

■ 環境教育

環境に対して適切に対応するため、(株)ロッテでは工場で勤務するすべての従業員へ環境教育を行っています。また、環境教育の効果と環境活動の実効性を高めるために、環境教育の評価制度を導入しています。さらに、環境管理責任者やISO14001事務局と品質保証本部は定期的に打ち合わせを行い、環境に関する情報共有やレベルアップを図っています。



環境教育の様子

◎ 環境事故および法令違反

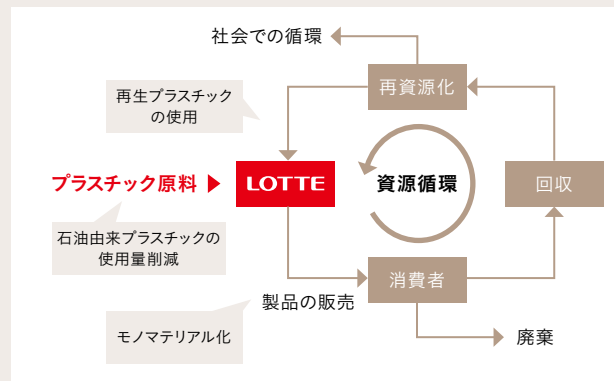
万が一、環境に関する事故や法令違反が発生した場合には、関係各部署や行政などと協力し、速やかに対応を講じる仕組みを整備しています。2019年度は、環境に関わる重大な事故や法令違反は発生しませんでした。

Column

プラスチック資源循環への貢献

(株)ロッテでは、「ロッテ プラスチック基本方針」を策定し、プラスチックを含む容器包装の持続可能な使用を目指しています。石油由来プラスチックについては、海洋の汚染や焼却廃棄される際に発生する温室効果ガスなど様々な課題が指摘されています。そこで、容器包装の薄肉化や寸法の見直しなどによる石油由来プラスチック使用量の削減を継続的に行っています。さらに、バイオマス素材への代替についても検討を進めていますが、技術開発や供給の面から課題の解決に時間がかかります。そこで、プラスチックの資源循環への貢献に取り組んでいます。

この資源循環への貢献の1つとして、再生プラスチックの容器包装への使用をスタートしました。2019年8月に発売した「黒いコアラのマーチ<ココア&ミルク>パウチ」では、PET ボトルをメカニカルリサイクルしたプラスチックをパッケージの約15% (重量比率) 使用しました。また、2020年10月に発売した「キシリトールホワイト<ピンクグレープフルーツ>パウチ」および「同<グリーンアップル>パウチ」でも同じく約15% 使用しました。今後も、再生プラスチックの容器包装への使用を検討していきます。また、よりリサイクルしやすい容器包装にするために、容器包装のパーツを単一の樹脂のみの構成にするモノマテリアル化にも取り組んでいきます。さらに、プラスチックの資源循環の重要な課題でもある回収の仕組みを整えることへのチャレンジも検討しています。これらの取り組みは、一企業で実現させることは極めて困難であり、多くのパートナー企業や行政の皆様と協力して実現を目指していきます。



公正な事業慣行

倫理的で誠実な事業活動を行うことがすべての基本です。コンプライアンスを徹底することはもちろん、サプライチェーンにおける環境や人権に配慮した持続可能な調達を実現することも、将来にわたって持続的で安定した事業活動を行っていくためには欠かせません。

関連するポリシー 調達方針

持続可能な調達

▶ 重要原材料

使用している原材料を使用量、依存度、代替の可否、環境や社会との関わりなどの視点で総合的に評価し、重要原材料を整理しています。また、事業や地球環境の変化、社会からの要請に応じて定期的に重要原材料を見直しています。

重要原材料

カカオ豆	チョコレート製品の主原料
パーム油	幅広い製品に用いられる油脂や食品添加物の原料
紙	幅広い製品の容器包装に使用

重要原材料①カカオ豆

▶ 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに調達するカカオ豆のうちフェアカカオの割合を20%以上にする、さらに2028年度までに50%以上を目標に掲げています。

2023年目標
20%以上



2028年目標
50%以上



2019年度のカカオ豆の調達実績は7.5千tで、そのうちフェアカカオの割合は4.0%でした。世界的なサステナビリティへの関心の高まりによる需要拡大の影響を受け、フェアカカオの調達割合が減少しました。今後は産地やサプライヤーと協力してフェアカカオの調達割合を拡大していきます。

カカオ豆調達量

2017年度	5.8千t	うちフェアカカオ8.6%
2018年度	6.4千t	うちフェアカカオ7.9%
2019年度	7.5千t	うちフェアカカオ4.0%

集計対象

株式会社ロッテ

豆の状態で開催したカカオ豆の重量

▶ FAIR CACAO PROJECT

(フェアカカオプロジェクト)

カカオ豆は、その多くが赤道直下の地域で、零細農家によって生産されています。カカオ豆を主原料とするチョコレートが主



調達活動
(フェアカカオ)

生産地支援

力製品である私たちにとって、カカオ豆の将来にわたる安定調達は重要な課題です。そのため、(株)ロッテでは、カカオ豆の生産地に寄り添い、現地の経済的・社会的発展に貢献する活動をFAIR CACAO PROJECTと名付けて取り組んでいます。この活動は調達活動と生産地支援の大きく2つに分けられます。

FAIR CACAO PROJECTの調達活動として、地域指定購入を行っています。これは、調達する生産エリアを指定し、そこから調達する高品質のカカオ豆に一定の割増金(プレミアム)を上乗せして支払うもので、その割増金が現地での分別流通の費用や生産地への支援(医療や保健、水の確保、農業技術指導など)に使われています。このように生産地の支援や発展に貢献しながら調達したカカオ豆をフェアカカオと名付けて、その調達割合の拡大をESG中期目標で掲げています。

また、生産地支援は、国内外の業界団体やNPOなどと協力して行っています。農家の支援や、生産地域の経済発展、将来の農家の担い手である子どもたちの教育水準の向上に貢献することは、カカオ豆の将来にわたる安定調達につながります。

■ 世界カカオ財団 (World Cocoa Foundation)

カカオ農家の支援を目的として2000年にアメリカで設立された国際的なNPO法人です。赤道直下のカカオ栽培地域にて、カカオ農家の技術支援や、過酷な児童労働のない社会の実現を目指した活動に取り組んでいます。



■ ジョイセフ

女性のいのちと健康を守るために活動している1968年に日本で設立された国際協力NGOです。ジョイセフを通じて、2008年からガーナ共和国への再生自転車などの寄贈を支援しています。診療所が不足している現地の村に届けられた再生自転車は、保健推進員や助産師が利用し、家庭訪問による健康教育などに用いられています。



■ 国連WFP

(国際連合世界食糧計画WFP協会)

飢餓のない世界を目指して活動する国連の食糧支援機関で、活動の柱の一つとなっているのが学校給食プログラムです。学校給食を届けるためのキャンペーンである「レッドカップキャンペーン」に参加し、国連WFPがガーナ共和国で行う、学校給食プログラムを支援しています。



学校給食プログラムの様子
©WFP/Mandang-ba Mustapha

重要原材料②パーム油

▶ 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに国内で調達するパーム油を、RSPO (持続可能なパーム油のための円卓会議) 認証などの第三者認証油に100%切り替えること、さらに2028年度までに国内外のグループ会社でも実現することを目標に掲げています。

2023年目標

100%
(国内)



2028年目標

100%
(国内+海外)



2019年度の国内におけるパーム油の調達実績は15.4千tでした。2020年度より、第三者認証油の調達を本格的に開始する予定です。

パーム油調達量

2017年度	15.3千t
2018年度	15.9千t
2019年度	15.4千t

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー
油脂および油脂加工品に含まれるパーム油の重量

▶ 社会との連帯

持続可能なパーム油の調達を推進するため、RSPOに加盟しています。RSPOを通じてパーム油に関わる企業・団体と連帯し、パーム油産業全体の持続可能な発展に貢献していきます。



4-1140-19-000-00

重要原材料③紙

▶ 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに国内で調達する製品の容器包装に用いる紙を、FSC(森林管理協議会)認証などの第三者認証紙や再生紙といった環境に配慮した紙に100%切り替えること、さらに2028年度までに国内外のグループ会社でも実現することを目標に掲げています。

2023年目標

100%
(国内)



2028年目標

100%
(国内+海外)



2019年度の国内における製品の容器包装に用いる紙の調達実績は42.5千tで、そのうち環境に配慮した紙の割合は93.1%となり、前年度より1.1ポイント増加しました。今後も、紙の持続可能な調達に取り組み、環境に配慮した紙の調達割合を拡大していきます。

紙調達量(製品の容器包装)

2017年度	44.0千t うち環境に配慮した紙91.5%
2018年度	45.5千t うち環境に配慮した紙92.0%
2019年度	42.5千t うち環境に配慮した紙93.1%

集計対象

株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

サプライヤーとの取り組み

▶ 価値観の共有

私たちは、調達方針に基づき、持続可能な調達活動を推進しています。調達方針には、倫理的な取引や品質、安全性に関してはもちろん、サプライチェーンにおける環境や社会への配慮についても掲げています。しかしながら、サプライチェーンのグローバル化に伴い、私たちだけでサプライチェーン全体における環境や社会への影響を把握・管理することは難しく、サプライヤーと協働して取り組むことが不可欠です。そこで、2019年4月に「株式会社ロッテサプライヤーガイドライン」を制定しました。本ガイドラインを通して、サプライヤーと基本的な価値観を共有し、さらには対話を通じてより有益な関係を構築して、共に持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

すでに、本ガイドラインの説明会を実施し、理解の促進に努めています。今後も定期的を開催するとともに、アンケートなどを通じた対話により、更なる理解促進と関係構築を進めていきます。

▶ 人権デューデリジェンス

(株)ロッテでは、自社および子会社だけでなく、サプライチェーンも含めた人権マネジメントの仕組みを構築するために、人権デューデリジェンスを行っています。すでに、質問票送付などのサプライヤー調査を通して、潜在的リスクが最も高いのはカカオ豆およびパーム油のサプライチェーンであることが判明しました。今後は、リスク低減に向けた取り組みを検討していきます(P27参照)。

コンプライアンス

▶ 行動憲章 LOTTE Group Way

行動憲章 LOTTE Group Wayは(株)ロッテおよび子会社の役員と従業員全員が理解し、これに基づいて業務を行う指針として2008年に制定しました。また、ホームページなどで公開しており、倫理的で誠実な事業活動を社会に約束しています。7つの項目から構成されており、企業理念であるロッテグループミッションとロッテバリューを実現するための行動指針として位置付けられています。

また、ホームページ以外にも、企業理念WEBブックおよび多言語版冊子の中でも行動憲章について解説し、全役員と従業員への浸透と理解促進を図っています。



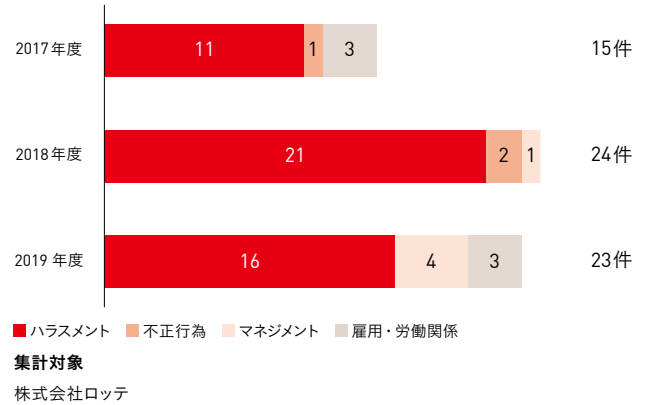
▶ コンプライアンス研修

行動憲章の浸透と倫理的で誠実な事業活動の実践のために、従業員を対象としたコンプライアンス研修を行っています。2019年度は、新入社員や昇格者を対象とした研修および年次研修でコンプライアンスに関する研修を実施し、約400名が受講しました。今後も、計画的に研修を継続していきます。

▶ 内部通報制度

(株)ロッテでは、内部通報制度としてクリーンラインを2006年より社内に設置し、電話やメール、手紙などで従業員からの通報や相談を受け付けています。対応については、通報者のプライバシー保護に努めるとともに、通報による不利益が生じないよう細心の注意を払っています。また、(株)ロッテおよび国内外の子会社では、社外通報窓口を2018年より設置しており、内部通報の実効性を高めています。

通報窓口への相談・通報件数



▶ 法令違反

2019年度は、重大な法令違反は発生しませんでした。

▶ 情報セキュリティ

(株)ロッテでは情報セキュリティマネジメント委員会を設置し、お客様や従業員、技術に関わる機密情報の保護と管理に取り組んでいます。同委員会では、情報セキュリティに関する教育も行っており、新入社員への研修のほか、定期的に標的型攻撃メールに関する注意喚起を行うとともに、実践型の訓練を実施しています。

▶ 動物実験について

(株)ロッテでは、動物実験に関する考え方を定めています。

動物実験に関する考え方

私たちは、社会に対して説明責任を果たす必要がある場合、適切な代替試験方法がない場合、又は、法規制上或いは行政から求められる場合等を除き、外部委託も含めて動物実験は行いません。やむを得ず動物実験を行う場合は、関連する法令や指針等に則り、3R*の原則を遵守します。

* Replacement (代替法の利用)、Reduction (動物利用数の削減)、Refinement (苦痛の軽減)

消費者課題

私たちは、企業理念のロッテバリューで「ユーザー・オリエンテッド(お客様第一)」を掲げており、すべての企業活動の起点は消費者です。食の安全・安心はもとより、国や地域、時代によって変化する多様な食のニーズに応えていきます。

関連するポリシー 品質方針 食品安全方針

食の安全・安心

▶ 中期目標と実績

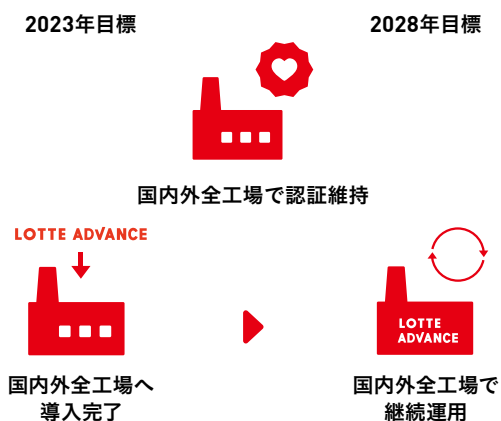
すでに、国内外すべての工場において、国際的な食品安全認証であるGFSI*1承認スキーム(FSSC22000*2 / BRC*3)認証を取得しており、この認証を適切に運用し維持することを目標に掲げています。

また、更なる品質の向上と高い安全性の確保を目指し、2023年度までに独自の新品質保証システムLOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)を構築し、国内外すべての工場に展開することを目標に掲げています。

*1 GFSI: 世界食品安全イニシアチブ(Global Food Safety Initiative)の略。食品安全システムの継続的改善を目的に2000年5月に設立された国際的な非営利団体。

*2 FSSC22000: 食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるISO22000を追加要求事項で補強した世界標準の食品安全規格。

*3 BRC: 英国小売業協会(British Retail Consortium)の略。同協会が食品安全のための第三者認証のスキームを運用している。



▶ 新品質保証システム

LOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)

現在構築中の新品質保証システムLOTTE ADVANCEは、すでに取得している国際的な食品安全認証であるGFSI承認スキーム(FSSC22000 / BRC)認証をベースに、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO9001*の設計開発システムの考え方や、独自の高い品質や安全のルールを取り入れています。製品の設計開発の段階から食品安全に関するリスクを評価するシステムを導入し、サプライチェーン全体でこれまで以上に幅広い視点でリスク低減に取り組みます。さらに、地域や製造している品目によって異なっていた品質や安全のルールも高いレベルでの統一を行います。

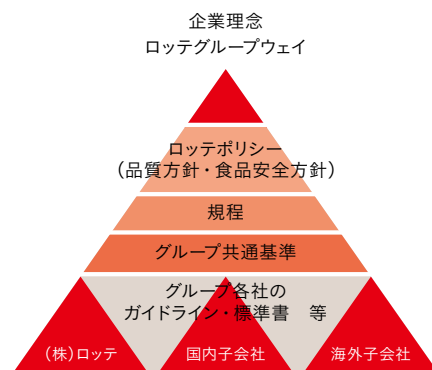
LOTTE ADVANCEは、品質方針および食品安全方針とそれに紐付く規程および、グループ全体に適用されるグループ共通基準、(株)ロッテおよび子会社ごとの具体的なルールなどを定めたガイドラインや標準書などによって構成されています。(株)ロッテ品質保証本部が中心となり、子会社を含めた整備を進めていきます。

* ISO9001: 一貫した製品・サービスを提供し、顧客満足度を向上させるための品質マネジメントシステムに関する国際規格。

LOTTE ADVANCEの構成



LOTTE ADVANCEの文書体系



① サプライチェーンでの品質保証

■ 推進体制

(株)ロッテ品質保証本部が中心となり、(株)ロッテグループの製品開発からお客様とのコミュニケーションに至るまでのサプライチェーン全体で品質保証に取り組んでいます。(株)ロッテの経営会議では、品質保証に関する重要な方針や中期目標の検討、目標の進捗確認などを行っています。また、各子会社や各部門の担当者のレベルアップを図るため、品質や衛生に関する社内教育を行っています。

サプライチェーン



■ 製品開発

お客様に安全で高品質な製品をお届けするために、LOTTE ADVANCEではリスク評価システムを導入し、製品開発の段階ごとにリスク評価を実施します。これによって、従来は製造工程に注力していた安全・安心の取り組み範囲を拡大させ、更なるリスク低減に取り組めます。

■ 原材料調達

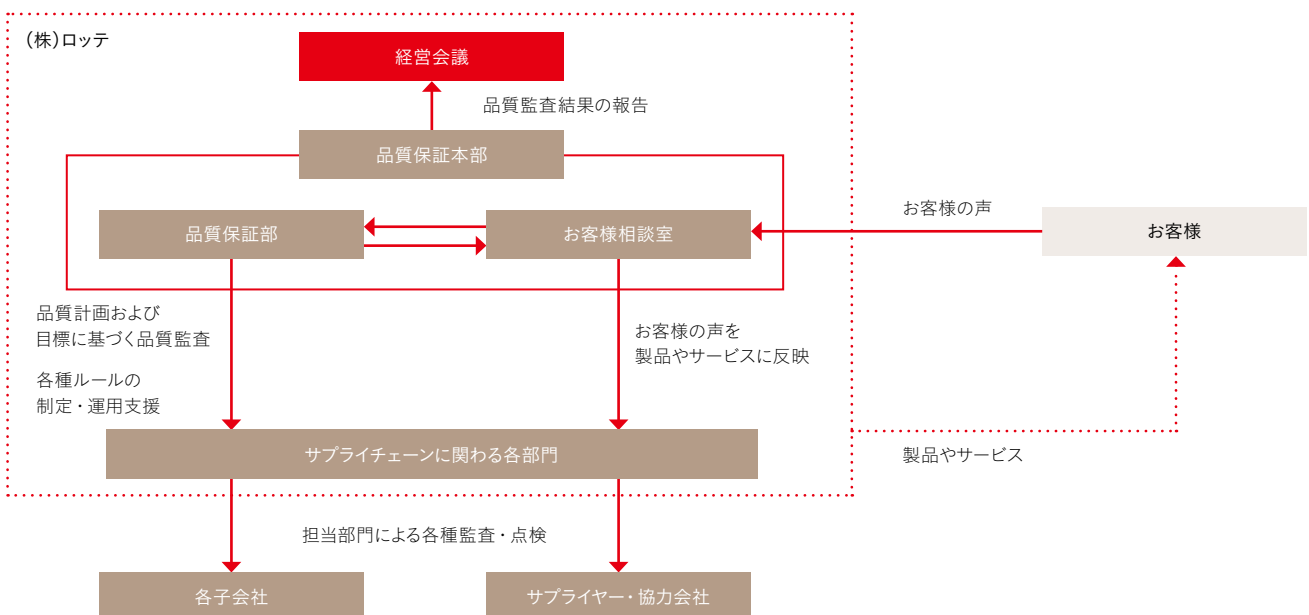
購入した原材料は、ロットごとに検査し、適切に管理しており、使用した製品が分かるようトレーサビリティを確保しています。

また、安全性や品質についてサプライヤーに定期的に自己評価をお願いし、それに基づいてフィードバックや衛生点検を行っています。これにより、サプライヤーと連携して継続的な品質の改善に努めています。衛生点検では、チェックリストを用いて必要事項を網羅的に確認するとともに、必要に応じて改善要請を行い、その結果を確認しています。

■ 生産

工場では製品への異物混入防止施策を重点的に実施しています。(株)ロッテでは、生産現場への入場時に、手洗い・アルコール消毒はもちろん、空気の噴射によるエアシャワー、掃除機のように吸い取る吸引式毛髪・塵埃除去機、粘着ローラーがけの3重の工程を経て、衣服に付着した毛髪やホコリなどの異物を取り除いています。また、製造工程においては、金属検出器、X線検査装置など複数の異物検出装置を用いて製品の安全性を確保しています。

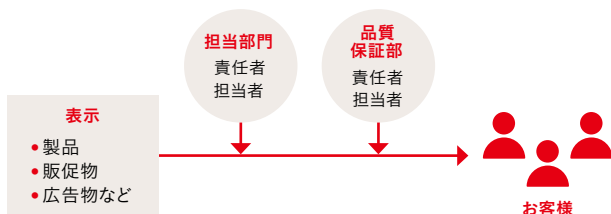
品質保証推進体制図



■ 販売

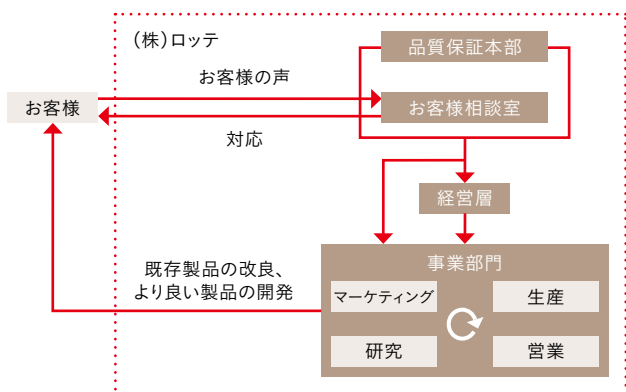
お客様が安心して製品を購入し、お召し上がりいただけるよう、製品パッケージや販促物、広告物などの表示については、関連法規を遵守することはもちろん、お客様に分かりやすく、誤認を与えないよう努めています。(株)ロッテでは、担当部門の複数人で表示の内容をチェックし、品質保証部が法律や業界ルールに照らして確認することで間違いや誤認を防ぐ体制を設けています。また、担当者のレベルアップを図るため、食品の表示に関する社内教育を品質保証部が主導して行っています。

表示のチェック体制



■ お客様とのコミュニケーション

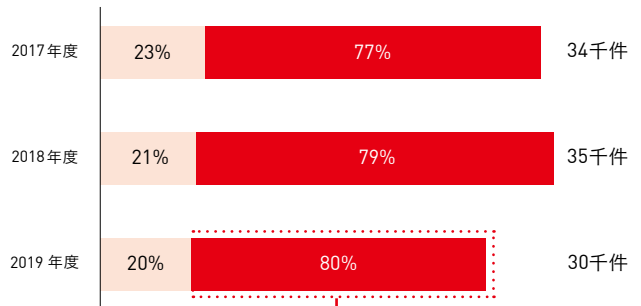
お客様からのお問い合わせやご相談にお応えする窓口として、(株)ロッテでは品質保証本部内にお客様相談室を設置しており、安心して製品やサービスをご利用いただけるよう、真摯な対応と情報提供に努めています。お客様の声は、経営層および社内関連部署で共有し、既存製品の改良や新製品の開発などにつなげています。



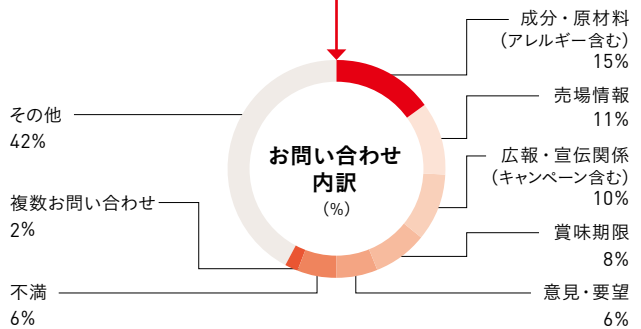
🔍 お客様の声件数と内訳

2019年度、(株)ロッテのお客様相談室に寄せられたお客様の声は30千件(2018年度は35千件)でした。

お客様の声件数



■ 製品への苦情 ■ お問い合わせ



集計対象

株式会社ロッテ

🔍 リコール

2019年度は、(株)ロッテで1件のリコールを実施しました。徹底的な原因究明と対策を行い、再発防止に努めてまいります。

「噛むこと」の普及

私たちは、戦後にチューインガムで創業し、今日まで「噛むこと」についての研究を重ねてきました。その結果として、「噛むこと」が全身の健康と密接に関わっていることが分かってきました。「噛むこと」が健康に与える良い影響について研究・発信し、「噛むこと」の普及を通して人々の豊かな生活に貢献していきます。

▶ 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに国内で「噛むこと」を意識して実践している人の割合を35%以上に拡大すること、さらに2028年度までに50%以上に拡大することを掲げています。



2019年5月調査	22%
2020年7月調査	21%

3,000人を対象としたインターネット調査(ロッテ調べ)

▶ 「噛むこと」の普及への取り組み

(株)ロッテでは、「噛むこと」の研究と成果発信を専門に行う噛むこと研究部を設立し、普及に取り組んでいます。



■ 噛むこと健康研究会

2018年度より「噛むこと」と全身の健康について研究および情報交換のネットワークを構築することを目的に噛むこと健康研究会を発足しました。歯学だけでなく、医学や栄養学、スポーツ学など異分野の研究者が協力して「噛むこと」について多面的に研究する新たな試みで、健康に資する噛む回数の目安なども検討しています。

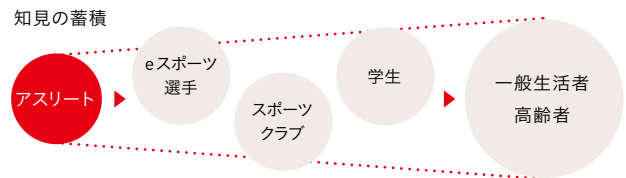


第2回噛むこと健康研究会

■ 「噛むこと」によるアスリートのサポート

私たちがこれまで行ってきた研究の中で、「噛むこと」とスポーツは深く関係していることが分かっており、それらの知見を活かしてアスリートのサポートを行っています。アスリートの咬合力や咀嚼能力と運動パフォーマンスの関係を研究するとともに、それぞれのアスリートに合わせた硬さや香りの専用チューインガムを提供し、コンディショニングやパフォーマンス向上に役立ててもらっています。さらに、これらの知見を活かして、eスポーツの選手へのサポートも行っています。今後は、これらの活動をさらに広めるため、アスリートだけでなく、一般生活者向けに普及させていくことを検討しています。

「噛むこと」とスポーツの普及



■ 自治体との取り組み

人生100年時代を迎え、健康の維持増進は全国的な課題です。そこで、「噛むこと」が健康に与える良い影響について普及させる取り組みを、全国の自治体と協力して行っています。行政はもちろん、地域の歯科医師会やお取引先の協力を得て実施しており、「噛むこと」による健康増進とともに地域の活性化にも貢献する取り組みです。引き続き、この取り組みを継続・拡大していきます。

④ セミナーやフォーラムへの協賛

「噛むこと」が健康に与える良い影響について広く普及させ、人々の豊かな生活に貢献できるよう、社外の様々な団体と連携して普及活動を行っています。

■ 噛むことからはじめる健康セミナー

「咀嚼でのばす健康寿命」「マイナス1歳からはじめるむし歯予防」「歯周病予防」というテーマで、健康セミナーを主催または協賛しています。2019年度は、全国6か所で実施しました。



噛むことからはじめる健康セミナー

■ 咀嚼と健康ファミリーフォーラム

「噛むことは健康のはじまり」をテーマに特定非営利活動法人日本咀嚼学会が1995年にスタートさせたフォーラムで、特別協賛しています。フォーラムでは、専門家やオピニオンリーダーの方々など、様々な講師陣を招き、「噛むこと」の大切さ、「噛むこと」による健康効果を多くの方々に発信しています。2019年度は11月に東京都で開催しました。



咀嚼と健康ファミリーフォーラム

■ 健やか親子21

母子の健康水準を向上させるため厚生労働省が2001年から開始した国民運動計画で、2005年から健やか親子21全国大会の開催の支援を行っています。この運動に企業メンバーとし

て参加し、主に母子伝播予防の観点から、むし歯予防の啓発に取り組んでいます。



健やか親子21全国大会

■ ハート・リング運動

「認知症にやさしい社会を。」を目指して、認知症に関するセミナーやシンポジウムなどの活動を行っているNPO法人です。「噛むチカラ」の面から活動を応援しようと、2014年からNPO法人ハート・リング運動に協賛しています。2019年度は「口から考える認知症」～「認知症1000万人時代」に光をもたらす視点～をテーマに、9月に東京都内で開催されたフォーラムに協賛しました。



ハート・リング運動

■ 噛んでのばす健康寿命「健康ガムカム ダンベル体操」

高齢者の方に、咀嚼と運動を通してオーラルフレイル(口を介した身体の衰え)を食い止める大切さを伝えるイベントで、1999年から敬老の日に、高岩寺・巣鴨とげぬき地蔵尊境内で実施しています。



健康ガムカムダンベル体操

歯と口の健康

チューインガムで創業した私たちは、歯と口の健康について長年研究を重ねてきました。1970年代には、フィンランドで歯の健康に役立てられていたキシリトールに着目し、研究を始めました。1997年にキシリトールが日本で食品添加物として認可されるといち早く製品化し、広くお客様にお届けすることで、「むし歯のない社会へ」という社会課題の解決に貢献してきました。今後もキシリトールが歯と口の健康に与える良い影響についての研究と普及を通して、人々の豊かな生活に貢献していきます。

▶ 中期目標と実績

私たちは、2028年度までに国内で歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合を50%以上に拡大することを掲げています。



2020年7月調査	32%
-----------	-----

3,000人を対象としたインターネット調査(ロッテ調べ)

▶ キシリトールについて

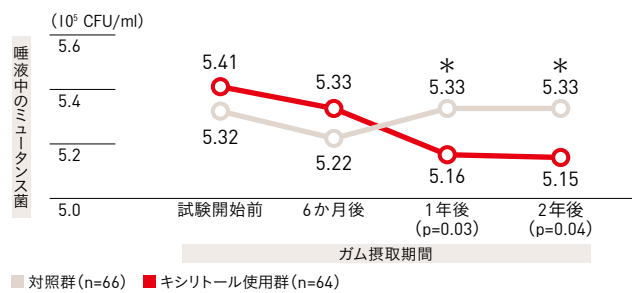
キシリトールは、むし歯の原因となる酸を作らない糖アルコールの一種で、白樺や樅などの植物から作られる成分です。砂糖と同じくらいの甘味がありますが、キシリトールのカロリーは約3キロカロリー/gと、約4キロカロリー/gの砂糖と比べて少なめです。また、スツとした爽やかな冷涼感が特徴です。

■ ミュータンス菌を減らす

ミュータンス菌は、ほとんどの人の口の中に潜んで歯垢を作り、口の中の糖분을エサとして繁殖し、むし歯の原因となる酸を作り出します。キシリトールは口の中のミュータンス菌を減らし、むし歯のリスクを減らす効果が報告されています。

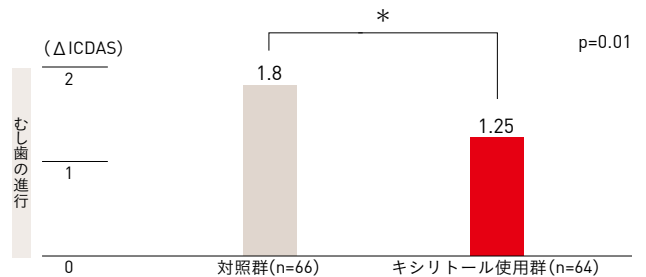
ミュータンス菌が多い成人を対象とした研究で、キシリトールを含むガムを1年間摂取し、その後1年間ガムを摂取せずに経過観察を行った群は、対照群に比べ、唾液中のミュータンス菌が減少し、むし歯の進行が抑えられました。

キシリトール含有ガム摂取後の唾液中ミュータンス菌の変化



むし歯の進行に対するキシリトール摂取の効果

全試験期間(ガム摂取期間1年間と追跡期間1年間)の重度う蝕歯、充填歯、抜去歯におけるΔICDASスコア



* 統計学的に有意差あり

出典: Cocco, F., Carta, G., Cagetti, M.G. et al. Clin Oral Invest(2017) 21: 2733. ©2017 The Author(s); Creative Commons Attribution 4.0 International License.

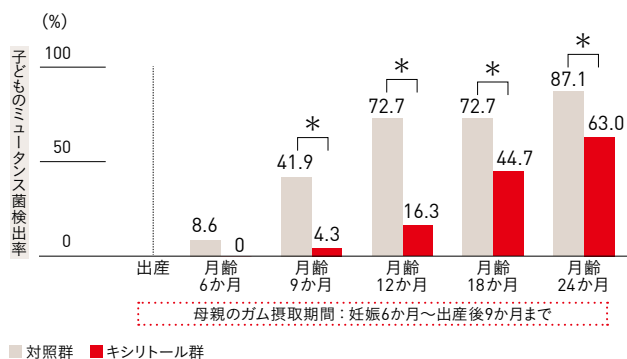
キシリトール使用群は、キシリトールを30%含むガムを1日6粒、1日当たり2.5gのキシリトールを1年間摂取した後、1年間ガムを摂取せずに経過観察した。対照群は、キシリトールを含まないガムを1年間摂取した後、1年間ガムを摂取せずに経過観察した。

■ 母子伝播のリスクを軽減する

ミュータンス菌は生まれたばかりの赤ちゃんの口の中には存在しませんが、大人と同じスプーンを使用した際などに、唾液を通じて伝播し、赤ちゃんの口に定着してしまいます。ミュータンス菌を減らす力がある成分キシリトールを、お母さんが妊娠中から摂り続けていると、赤ちゃんへのミュータンス菌の伝播を遅らせることが報告されています。

ミュータンス菌が多い妊婦を対象とした研究で、対照群は歯磨き指導や食事指導を含む保健指導を受け、キシリトール群は保健指導に加え、甘味料としてキシリトールのみを配合したガムを13か月間摂取しました。キシリトール摂取量は1日当たり5g以上を目標としたが、実際の平均摂取量は3.83gでした。子どものミュータンス菌検出率を評価したところ、キシリトール群は、対照群に比べ、生後9か月から24か月までの間、ミュータンス菌が検出される割合が有意に少ないことが分かりました。

母親のキシリトール摂取と子どものミュータンス菌検出率



■ 対照群 ■ キシリトール群

出典：Nakai Y, et al. Xylitol Gum and Maternal Transmission of Mutans Streptococci. J Dent Res 89(1): 56-60, 2010

ミュータンス菌が多い妊婦を対象とした研究

* 統計学的に有意差あり

製品を通じた健康な生活への貢献

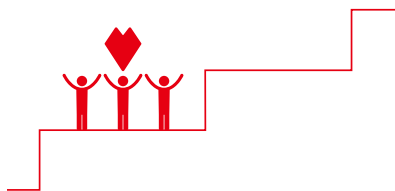
私たちは創業以来、新しい健康価値を持つ製品を開発することで、人々の健康な生活に貢献してきました。一例を挙げると1997年発売の「キシリトールガム」は、それまでの常識を覆し、チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新たな価値を提供することで、「むし歯のない社会へ」という社会課題の解決に貢献してきました。

▶ 中期目標と実績

私たちは、これまで培ってきた知見や技術を活かし、2023年度までに国内で販売する製品を通じて年間3,456万人以上の人々の健康な生活に貢献すること、さらにその後も拡大させることを掲げています。

2023年目標

3,456万人
以上



2018年度	2,530万人
2019年度	2,436万人

対象ブランド(キシリトール、機能性表示食品、のど飴、ZERO、乳酸菌ショコラ、ポリフェノールショコラ他)のSCI購入率(期間累積)×日本国民人口

▶ ロッテノベーション

健康意識の向上や少子高齢化、食生活の多様化といった社会変化を背景に、「おいしさ」だけでなく「身体にいい」ものを「手軽に」摂りたいという消費者ニーズが高まっています。私たちは、食における新しい健康価値を持つ製品でこれらのニーズに応え、社会課題の解決に貢献するイノベーション「ロッテノベーション」を積極的に推進しています。

■ 乳酸菌ショコラ

お菓子やアイスクリームの特性と健康価値を持つ素材を組み合わせることで、新しい価値を提供することができないか、研究を続けてきました。その結果、生まれたのが「乳酸菌ショコラ」です。乳酸菌をチョコレートで包み、生きたまま安定的に保つロッテ独自の製法により、時間や場所を選ばず気軽に食べることができます。これによって、乳酸菌を「生きたままいつでもどこでも摂れる」という新しい価値を社会に提供することができました。

コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展

食に関する文化や価値観は、国や地域だけでなく世代によっても異なります。グローバルに事業を展開する私たちは、地域社会や国際社会の一員として、多様な文化や価値観を尊重し、地域の持続的な発展に寄与するとともに、将来世代への食育活動にも取り組んでいきます。

食育

食は健康の源と考え、正しい食に関する知識や理解を深める食育活動に、工場見学や食育セミナーなど、様々な機会を通じて取り組んでいます。

🔴 中期目標と実績

私たちは、2023年度までに食育体験者を年間10万人以上に、さらに2028年度までに年間15万人以上に拡大することを掲げています。



食育体験者数

2017年度	3.7万人(うち工場見学3.2万人)
2018年度	5.0万人(うち工場見学3.6万人)
2019年度	6.3万人(うち工場見学3.6万人)

集計対象

株式会社ロッテ

■ 工場見学

(株)ロッテの浦和工場と狭山工場では、工場見学を受け入れています*。工場見学では、食の安全・安心についての取り組み現場を実際に見学していただくとともに、環境への取り組みなどをご説明しています。

* 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年2月より工場見学を休止しております。再開時期については、決まり次第ホームページでお知らせします。



工場見学の様子

■ 食育セミナー

(株)ロッテでは、行政やお得意先等と協力して様々な食育セミナーを実施しています。チューインガムやチョコレートを実際に手作りすることで原材料や製造方法に関する知識を楽しく学ぶ体験型の教室や、食と健康に関する知識を分かりやすくお伝えするセミナー等を開催しています。



手作り体験教室の様子

■ 教材提供

(株)ロッテでは、歯と口の健康をテーマに、小学校での食育についての授業で活用いただける教材の提供を行っています。

子会社の取り組み

① (株)メリーチョコレートカンパニー

2009年よりメリー桜プロジェクトを行っています。当プロジェクトは、国内の小学校で子どもたちと一緒に桜の植樹を行う活動で、2019年度は神奈川県横浜市立永田台小学校、山形県天童市立天童中部小学校、富山県富山市立古沢小学校の計3校で植樹を行いました。また、2009年よりクリスマスシーズンに児童養護施設の子どもたちにチョコレートをプレゼントしており、2019年度は65施設に寄付を行いました。



植樹の様子

② ロッテウェデル(ポーランド)

■ CSR 課題の整理を実施

約170年の歴史を持つロッテウェデルでは、これまでのCSR活動の振り返りとステークホルダーとの対話によって、今後注力すべきCSR課題の抽出を行いました。この対話には、「地域社会」「事業環境」「従業員」をテーマに、約100人が参加し、160以上の課題について議論を行いました。その結果、以下の3つの注力すべき課題を設定しました。

人	   
イノベーション	
環境	 

■ Heart for Children

ロッテウェデルでは左記の注力すべきCSR課題に基づいて、取り組みを行っています。その1つが、ポーランドの首都ワルシャワのプラガ地区で子どもや若者を支援するHeart for Childrenです。工場の屋上に養蜂場を、また近隣にはエコファームを建設し、子どもたちへの環境教育と若者の社会参画のサポートを行っています。



③ タイロット

■ 食育活動

タイロットのアマタ工場では、毎年地元の小学生の工場見学を受け入れています。生産工程だけでなく、食品の安全・安心や環境配慮の取り組みについてもお伝えしています。



▶ ロッテベトナム

■ 日越交流チャリティイベント「Mottainai 2019」へ参加
「Mottainai 2019」は、ベトナム婦人連合会婦人新聞社が主催し、日本の「もったいない」文化をベトナムで普及させることで環境活動に役立てることを目的としたチャリティイベントで、集まったお金は交通遺児の支援活動に寄付されました。ロッテベトナムは、製品の空き箱を使ったペーパークラフトの展示とチャリティへの協賛を行いました。



▶ ロッテインドネシア

■ 小学校での募金活動

ロッテインドネシアでは、小学校で自社製品(チョコパイ)のサンプリングに合わせて募金を集める活動を実施しています。2019年度は2回行い、合計30校で実施しました。集まったお金は、孤児院への支援活動を行う団体に寄付され、食品や物資が孤児院へ届けられました。



支援

▶ 被災支援

■ 令和元年台風第15号および第19号

(株)ロッテの親会社である(株)ロッテホールディングスより、被災された方々や被災地の支援活動にお役立ていただくため、日本赤十字社を通じて義援金3,000万円を寄付しました。

■ オーストラリア森林火災(2019年発生)

(株)ロッテより、コアラの保護や被災地域の復興活動にお役立ていただくため、オーストラリアコアラ基金に対して支援金13万豪ドル(988万円)を寄付しました。



▶ 新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援

■ 医療従事者への支援

新型コロナウイルス感染が拡大する中、最前線で働く医療従事者の皆様をサポートする目的で、(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカンパニーより新型コロナウイルス感染症対応に従事されている医療機関へWeSupport*を通じてお菓子の無償提供を行いました。

* WeSupport: オイシックス・ラ・大地(株)が(一社)RCF、ココネット(株)(セイノーホールディングスグループ)と連携して2020年4月20日に設立したプラットフォームで、新型コロナウイルス感染症の予防や治療にあたり、健康と命を守ってくれている医療従事者を食品の物資支援でサポート。食品の提供を希望する企業や団体と、支援を必要とする病院とのニーズのマッチングを行い、受け取り時に病院側の負担や迷惑にならず、必要なものが必要な場所に、安全にお届けできる仕組みを提供。

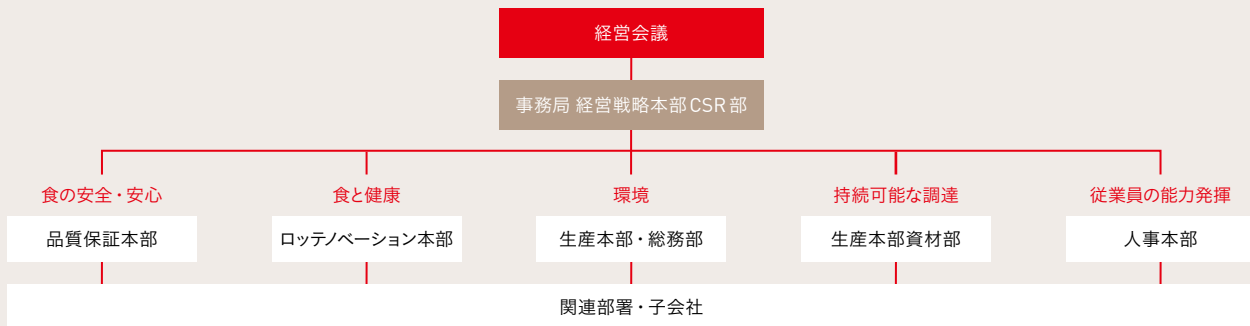
■ 学童保育施設への支援

新型コロナウイルスの感染予防のため学校が一斉休校となり、ご家庭の都合などによって、自宅で過ごすことが難しい子どもたちを受け入れている学童保育施設をサポートする目的で、(株)ロッテおよび(株)メリーチョコレートカンパニーより事業所近隣の学童保育施設にお菓子の無償提供を行いました。

サステナビリティ活動の推進

推進体制

(株)ロッテ経営戦略本部CSR部が事務局となり、(株)ロッテグループ全体のサステナビリティ活動を推進しています。また、ESG中期目標の進捗管理も同部署が行っており、達成に向けた取り組みについて関連部署と連携して策定しています。ESG中期目標の進捗および、サステナビリティに関する重要事項について、(株)ロッテの経営会議に報告しています。



活動の指針

活動の指針として、サステナビリティ方針を策定しています。

2018年4月18日 制定

私たちは、企業理念の実践を通じて企業価値の向上を目指すとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。

1. 企業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

私たちは、人々が心身ともに健康であり続けられる社会の実現に向けて積極的に取り組み、企業活動を通じて社会課題の解決に貢献します。

2. 安全・安心を徹底します。

私たちは、製品・サービスの安全・安心を徹底し、その上で「おいしさ」、「たのしさ」、「やすらぎ」を提供することで、社会の豊かさの向上に貢献します。

3. 環境負荷の低減に貢献します。

私たちは、自然の恩恵を受けて成長し、地球の一員として成り立っていることをよく理解し、企業活動を通じて低炭素社会や循環型社会の実現に貢献します。

4. 従業員が能力を最大限に発揮できる職場環境を目指します。

私たちは、従業員一人ひとりの多様な個性や働き方を尊重し、ライフ・ワーク・バランスの実現に取り組み、個々の能力を最大限に発揮できる環境を目指します。

5. バリューチェーン全体で持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。

私たちは、持続可能な社会の実現のために、ステークホルダーの皆様と協力し、バリューチェーン全体で取り組みます。

6. 対話を通じて社会からの信頼を確立します。

私たちは、あらゆる法令、規程を遵守し、人権を尊重するとともに、高い倫理観に則った誠実かつ公正な企業活動を遂行します。

私たちは、ステークホルダーの皆様との健全かつ正常な関係を構築するとともに、公正な競争、企業情報の適切な開示等、社会の一員としての責任を果たします。

サステナビリティ活動は社外の声に傾聴しながら進めています。定期的に社外有識者とのダイアログを行い(P22参照)、いただいたご意見を活動に反映しています。また、社会的責任に関する国際ガイドンス規格であるISO26000を活用するとともに、SDGs(持続可能な開発目標)をはじめとする国際的なイニシアチブを踏まえ取り組みを行っています。情報開示については、GRI(Global Reporting Initiative)やSASB(米国サステナビリティ会計基準審議会)を参考にしながら、ステークホルダーの皆様との対話に資するよう開示内容の拡充に努めています。

有識者を交えた勉強会の実施

(株)ロッテ経営戦略本部CSR部が主催し、マテリアリティに沿ったテーマで、社外の有識者を交えた社内勉強会を開催しています。また、勉強会の内容は社内のイントラネットに掲載し、参加できなかった従業員とも内容を共有しています。

勉強会実績

2018年度	食品ロス (関連するマテリアリティ: 環境)
	ダイバーシティ (関連するマテリアリティ: 従業員の能力発揮)
2019年度	食品表示 (関連するマテリアリティ: 食の安全・安心)
	オーラルフレイル* (関連するマテリアリティ: 食と健康)
	パーム油 (関連するマテリアリティ: 持続可能な調達)
	フードセーフティ (関連するマテリアリティ: 食の安全・安心)

* オーラルフレイル: 噛む、飲み込む、話すなどの口腔機能が衰えることを指し、フレイル(身体の衰え)の一種。

従業員への浸透施策

サステナビリティの活動を推進するためには、その担い手である従業員が考え方を十分に理解する必要があります。そこで、様々なアプローチで浸透活動を行っています。(株)ロッテWEB社内報では、マテリアリティやESG中期目標について解説する記事を掲載するとともに、サステナビリティに関するトピックをタイムリーに情報発信しています。さらに、人事部門が主催する各種研修の中で、サステナビリティに関する内容を組み込んでいます。2019年度は社員意識調査の管理職向けフィードバックおよび新任基幹職向けの研修の中でサステナビリティについて説明しました。

Message

サステナビリティ活動の推進に向けて



佐藤 誠

株式会社ロッテ
経営戦略本部CSR部長

(株)ロッテは、2018年4月にサステナビリティ方針を策定し、それに基づいてサステナビリティ活動を進めています。持続可能な社会の実現に向けて、マテリアリティ(重要課題)を整理し、取り組むべき課題を明確にしました。さらに、課題に具体的に取り組むためにESG中期目標を設定し、その進捗を管理しています。

2020年の世界は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大により、大きな混乱に見舞われ、これを防ぐため、人々の活動や移動などに様々な制約が課せられました。今後も、「新しい生活様式」を実践しながら、引き続き感染拡大防止に努めていかなければなりません。世界の不確実性が高まる中で、企業が持続可能な社会の実現に貢献していくことは、今後ますます重要になると考えています。

ロッテグループミッションである「私たちはみなさまから愛され、信頼される、よりよい製品やサービスを提供し、世界中の人々の豊かなくらしに貢献します。」は、まさしく持続可能な社会のための取り組みによって実現されると言えます。これは、SDGs(持続可能な開発目標)が掲げる「誰一人取り残さない」に通じるものと考えています。今後も、ステークホルダーの皆様からのご意見を取り入れながら、従業員が一体となってサステナビリティ活動を推進していきます。今後の活動にご期待ください。

ロッテのサステナビリティ取り組み体系

ESG	ISO26000 7つの中核主題	主要な課題	当該レポートでの報告事項	マテリアリティ
E (環境)	環境	CO ₂ 排出量の削減 (P36)	CO ₂ 排出量実績 エネルギー投入量実績 物流における取り組み	環境
		廃棄物の削減とリサイクル (P38)	廃棄物の発生量とリサイクル率実績	
		FLW(食品ロスおよび廃棄物)の削減 (P38)	FLW発生量実績および削減の取り組み	
		水資源 (P39)	水使用量実績 水リスクについて	
		原材料 (P40)	原材料調達量実績 容器包装の環境配慮	
		環境マネジメント (P40)	環境活動推進体制 他	
S (社会)	人権	人権デューデリジェンス (P27)	人権リスクアセスメントと実態把握調査 特定した人権リスク	従業員 の 能力 発揮 持続 可能 な 調達 食の 安全・ 安心 食と 健康
		従業員への啓発 (P27)	研修 相談窓口の設置	
	労働慣行	ダイバーシティ (P28)	女性活躍の推進 障がい者および高齢者の雇用	
		ライフ・ワーク・バランス (P29)	柔軟な働き方による生産性向上	
		従業員エンゲージメント (P31)	社員意識調査	
		人材育成 (P31)	能力開発プログラム キャリア開発支援	
		健康経営 (P32)	健康経営	
	労働安全衛生 (P33)	労働安全衛生の体制と教育 安全監査・点検の実施、労働災害実績		
	公正な事業慣行	カカオ豆の持続可能な調達 (P42)	フェアカカオプロジェクト	
		パーム油の持続可能な調達 (P43)	パーム油の調達実績	
紙の持続可能な調達 (P44)		紙の調達実績		
サプライヤーとの取り組み (P44)		価値観の共有 他		
コンプライアンス (P45)		コンプライアンス研修 内部通報制度 情報セキュリティ 他		
消費者課題	食の安全・安心 (P46)	新品質保証システムLOTTE ADVANCEの導入 サプライチェーンでの品質保証 他		
	「噛むこと」の普及 (P49)	「噛むこと」の普及への取り組み 他		
	歯と口の健康 (P51)	キシリトールについて		
コミュニティへの参画 およびコミュニティの発展	製品を通じた健康な生活への貢献 (P52)	ロッテノベーション		
	食育 (P53)	食育活動(工場見学、食育セミナー)		
	国内子会社の取り組み (P54)	(株)メリーチョコレートカムパニー		
	海外子会社の取り組み (P54)	ロッテウェデル(ポーランド) タイロッテ ロッテベトナム ロッテインドネシア		
G (ガバナンス)	組織統治	コーポレート・ガバナンス (P26)	コーポレート・ガバナンス 他	
		リスクマネジメント (P26)	危機管理体制 大規模災害への対策	

●: 主に関連するSDGs ○: 関連するSDGs

SDGsの17目標との関連性

1 貧困の撲滅	2 飢餓の撲滅	3 健康な生活と長寿を促す	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等をすすめる	6 安全な水とトイレを世界中に	7 持続可能なエネルギーを	8 働きがい、経済成長、雇用	9 産業、科学、イノベーションをすすめる	10 人や国ごとの格差をなくす	11 持続可能な都市とコミュニティを	12 持続可能な消費と生産を	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正な社会を	17 パートナーシップを世界に
						○		○		○	○	●				
								○			●		○			
								○			●					
					●								○			
						○	○				○	○	○	○	○	
				●			●		●							●
				●			●		●							
				●			●		○							
				○			●									
			○	○			●									
		○					●									
		○					●									
	○	○		○	○		●	○	○		●					●
	○	○		○	○		●	○	○		●	●		○		●
	○	○		○	○		○	○	○		○	○		○	●	●
				○			○		○						●	
		●	○					○			○				○	
		●					○	●								○
		●					○	●								
		●					○	●								
		●	○													○
																○
	○	○													○	●
															●	
										●						●

CO₂排出量の第三者保証

当該レポートP36に記載した2019年度のエネルギー起源CO₂排出量(✓の付されたデータ)については、デロイトトーマツサステナビリティ株式会社による独立した第三者保証を受けています。

Deloitte.
デロイトトーマツ

トーマツ.

独立した第三者保証報告書

2020年10月14日

株式会社ロッテ

代表取締役 社長執行役員 牛腸 栄一 殿

デロイトトーマツ サステナビリティ株式会社
東京都千代田区丸の内三丁目2番3号

代表取締役

杉山 雅彦

デロイトトーマツサステナビリティ株式会社(以下「当社」という。)は、株式会社ロッテ(以下「会社」という。)が作成した「株式会社ロッテ サステナビリティレポート2020」(以下「報告書」という。)に記載されている✓の付された2019年度のエネルギー起源CO₂排出量(Scope1、Scope2)(以下「CO₂情報」という。)について、限定的保証業務を実施した。

会社の責任

会社は、会社が採用した算定及び報告の基準(報告書のCO₂情報に注記)に準拠してCO₂情報を作成する責任を負っている。また、CO₂情報の算定は、排出係数と数値データの決定に利用される科学的知識が不完全である等の理由により、固有の不確実性の影響下にある。

当社の独立性と品質管理

当社は、誠実性、客観性、職業的専門家としての能力と正当な注意、守秘義務、及び職業的専門家としての行動に関する基本原則に基づく、国際会計士倫理基準審議会の「職業会計士の倫理規程」が定める独立性及びその他の要件を遵守した。また、当社は、国際品質管理基準第1号「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」に準拠して、倫理要件、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の要件の遵守に関する文書化した方針と手続を含む、包括的な品質管理システムを維持している。

当社の責任

当社の責任は、当社が実施した手続及び当社が入手した証拠に基づいて、CO₂情報に対する限定的保証の結論を表明することにある。当社は、「国際保証業務基準3000 過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」(国際監査・保証基準審議会)、「国際保証業務基準3410 温室効果ガス報告に対する保証業務」(国際監査・保証基準審議会)及び「サステナビリティ情報審査実務指針」(サステナビリティ情報審査協会)に準拠して、限定的保証業務を実施した。

当社が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、質問、プロセスの観察、文書の閲覧、分析的手続、算定方法及び報告方針の適切性の検討、報告書の基礎となる記録との照合又は調整、及び以下を含んでいる。

- ・ 会社の見積り方法が、適切であり、一貫して適用されていたかどうかを評価した。ただし、手続には見積りの基礎となったデータのテスト又は見積りの再実施を含めていない。
- ・ データの網羅性、データ収集方法、原始データ及び現場に適用される仮定を評価するため、責任者への質問、証憑及び関連文書の閲覧を含む手続により、事業所の調査を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務に対する手続と比べて、その種類と実施時期が異なり、その実施範囲は狭い。その結果、当社が実施した限定的保証業務で得た保証水準は、合理的保証業務を実施したとすれば得られたであろう保証水準ほどには高くない。

限定的保証の結論

当社が実施した手続及び入手した証拠に基づいて、CO₂情報が、会社が採用した算定及び報告の基準に準拠して作成されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

以上

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

会社情報

商号	株式会社ロッテ
本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-1
創業	1948年6月
資本金	2億1,700万円
決算期	3月31日
従業員数	2,405名 6,485名（海外拠点・グループ会社含む） （2020年3月31日現在）

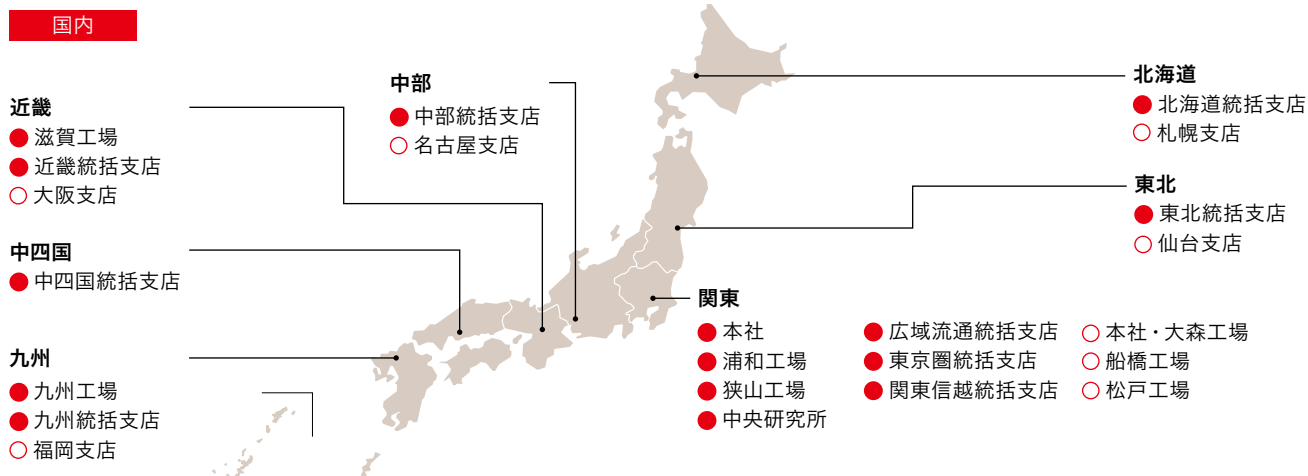
WEBサイトのご案内

WEBサイトにも各種情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。

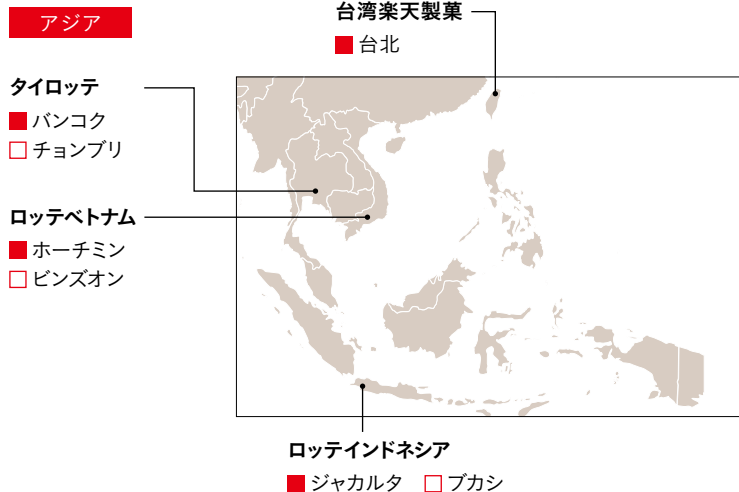
 「サステナビリティ」
<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/>

事業拠点

● (株)ロッテ ○ (株)メリーチョコレートカンパニー



■ ヘッドオフィス □ 工場



ヨーロッパ



お口の恋人

LOTTE

株式会社ロッテ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-20-1

<https://www.lotte.co.jp/>

Printed in Japan

